

平成 21 年度  
水源地域活性化調査（最上川流域）  
報 告 書

平成 22 年 3 月

国土交通省 土地・水資源局  
水資源部 水源地域対策課

# 平成 21 年度水源地域活性化調査（最上川流域）報告書

## 目 次

### 調査概要

1. 調査の目的	概要 1
2. 調査内容	概要 1
3. 今後必要な取組	概要 6
4. 調査概要の英訳	概要 7

1. 業務概要	1
1.1 業務目的	1
1.2 対象地域	1
1.3 業務概要	1
1.4 業務内容	1
1.5 成果品の内容・部数	3
1.6 業務実施体制	3
2. 平成 20 年度調査の概要と課題	4
2.1 調査の目的	4
2.2 調査内容	4
2.3 今後、必要な取り組み	8
3. 「歩く」ことをテーマとした地域活性化活動の支援	10
3.1 実施体制の構築	10
3.2 アルクセッション連絡会議の開催	11
3.3 企画提案	12
3.4 招聘旅行の実施	24
3.5 地域支援業務	35
4. アルクセッションの実施	38
4.1 アルクセッションの実施状況	38
4.2 参加状況及び参加者の意見	62
4.3 反省会の実施	71

5. 水源地域を担う人材育成 .....	73
5.1 実施の考え方 .....	73
5.2 実施概要 .....	74
5.3 研修会の企画と実施 .....	75
5.4 平成 21 年度水源地域活性化リーダー養成研修派遣 .....	90
5.5 都内旅行会社への企画提案出張支援 .....	96
6. 継続的かつ流域での展開に向けて .....	99
6.1 2009 年度の成果 .....	99
6.2 今後の課題 .....	103
6.3 平成 20 年度調査の課題への対応（工夫点） .....	105
6.4 まとめ .....	107
<b>【資料編】</b>	
1. アルクセッション 09 にて制作した看板、旗、チラシ類 .....	資料 1
2. 「まぼろしの左荒線街道ツアー」 .....	資料 6

# 調査概要

## 1. 調査の目的

最上川上流域を中心にした歩くことをテーマとした観光商品であるイベント（アルクセッション）の企画開発、ツアー実施、評価を行い、自立化・持続化のための仕組みを構築することを目的とした。

## 2. 調査内容

### （1）事業の実施内容

#### ①「最上川アルクセッション’09」の企画・立案の支援

昨年度実施したイベントの課題を受け、「最上川アルクセッション’09」の企画・立案を支援した。具体的には、

- a 地域の魅力を再発見する企画内容の提案、
- b 実施体制の構築、
- c 東京事務所の活用を含めた PR 戦略の提案と実施、
- d 周辺自治体や流域の NPO との連携等

を通じて、次年度以降のイベントの自立化・持続化のための仕組みを構築した。

#### ②水源地域を担う人材育成

「最上川アルクセッション’09」の主催者、運営主体に対して、水源地域を担う人材の育成のために必要な研修を企画・主催した。

#### ③得られた知見のモデル化

①、②から得られた知見により、他流域での取り組みに参考となる点を取りまとめた。

### （2）調査の成果

#### ー 1) 概要

##### ①地域の魅力を再発見する企画内容の提案

地場製品の試食や商店クイズ、割引サービス等を通じて、来訪者と地域の方が話す機会を設ける場を設定し、単純に名所等を巡るガイドツアーからより地域の魅力を体験でき

るイベント内容とした。

②実施体制の構築

長井市内の諸機関が連絡調整を行い、連携しながらイベントを実施できる体制を長井市内で初めて構築した。

③広報活動の戦略的連携

10月にイベントを集中的に実施することにより広報を連携して実施した。山形鉄道との連携により、総額の2割負担で10万世帯へアルクセッションの広報ができた。

④東京事務所の活用

置賜地域地場産業振興センター・東京事務所のある大田区において、長井市と大田区観光協会との交流の糸口をつくった。

⑤水源地域を担う人材育成

流域の市民団体や観光ボランティア等を対象に、歩く観光を発展させていくための研修会を実施した。

⑥流域における取組とアルクセッションの広がり

周辺自治体や最上川流域のNPOと連携して、アルクセッションを1回白鷹町において実施した。

## 一 2) 水源地域活性化調査（最上川流域）の経緯

平成19年度 : 現状把握と取り組み方向性（テーマ）の設定（企画立案）

平成20年度 : 取り組み方向性（テーマ）の具体化に向け、実践（試行）と評価

平成21年度 : 水源地域の自立化・持続化のための仕組みの構築（業務調査目的より）

①平成20年度の課題を解消

②流域全体を調査対象とし、上下流連携により構築

③都市部と水源地域との交流・連携等により構築

－ 3) 平成 21 年度アルクセッションの成果

平成 20 年度 : アルクセッションの実施  
 ・主催団体 : 長井まちづくり NPO センター  
 ・実施エリア : 長井市内  
 ・実施ルート : 5 ルート実施



平成 21 年度 : アルクセッションの実施  
 ・主催団体 : **3 団体が実施 (企画・実施団体の拡大)**  
 ・実施エリア : **長井市、白鷹町 (実施エリアの拡大)**  
 ・実施ルート : 4 ルート実施

実施団体	長井市観光協会	長井まちづくり NPO センター	最上川リバーツーリズムネットワーク	
実施エリア (実施日)	長井市内で実施 (10 月 10 日)	長井市内で実施 (10 月 31 日)	流域 (沿川) での実施 (10 月 17 日)	
実施テーマ	・最上川及び舟運 ・水のくらし	・歴史的まちなみ ・水と特産品、見学と 試食	【長井ルート】 ・まちなみ散策	【白鷹ルート】 ・最上川の風景と産業
主な成果	<b>●自立化・持続化のための仕組みを構築</b> ・長井市内での関係機関による情報共有の仕組みを確立 ・長井市内での各団体の連携と役割分担による実施体制を確立 ・複数団体の協力による、広報費用の連携やダイレクトメールによる連絡先の広がり ・市内商店等との協力関係 (試食、見学・説明、割引等) を構築 ・収益性の目途		<b>●流域との連携の構築</b> (長井市と朝日町、白鷹町の連携したアルクセッションやリバーツーリズムの実施)	

- ・平成 20 年度の課題を解消することが本年度の目的の一つである。この点から、今年度の取組の対応・工夫点を下記に整理した。

平成 20 年度にあげられた課題	平成 21 年度での対応・工夫点
<p>【課題 1】 アルクセッションのプロモーション方法の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イベントを 10 月に集中的に実施し、広報を集約して実施した。</li> <li>●複数の主催者の広報費用を持ち寄ることで大規模な広報（10 万世帯）を展開した。</li> <li>●連携している組織毎に各団体の所有している名簿・人脈に基づいてダイレクトメールを送付した。</li> <li>●置賜地域地場産業振興センター・東京事務所の人脈を活用して交流の糸口を形成した。</li> </ul>
<p>【課題 2】 プログラムの中心となっている長井まちづくり NPO センターと長井市の協力体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関連する団体が一つのテーブルにつき、情報や思いを交換しながら、各団体の連携と役割分担により歩く観光の仕組みをつくった。</li> <li>●受付業務を長井市観光協会が受け持つことで、複数の団体が企画及びその実施に専念できる体制ができた。</li> </ul>
<p>【課題 3】 来訪者を迎え入れる地元商店の協力体制の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「つまみ食いつアー」の実施</li> <li>●フリータイムでのお菓子やさんめぐりと割引の実施</li> <li>●店先プレゼント&amp;クイズの実施</li> </ul>
<p>【課題 4】 来訪者にも買ってもらおう長井ならではの商品（土産物等）の開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな商品開発は時間とお金がかかる。その費用負担まで踏み込まないと実施は難しい。そこで、地域の隠れた産品を、「つまみ食いつアー」として掘り起こした。</li> <li>●掘り起こしのため、試食を商店ではなく、製造元で実施した。</li> </ul>
<p>【課題 5】 単発イベントから継続開催するための収益モデルの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後活用できる案内看板やアルクセッション開催時の協力店舗用の旗を制作。今後の開催費用の負担を低減。</li> <li>●20 名程度の集客ならば、広報費用を除く費用の収支について目途ができた。</li> </ul>
<p>【課題 6】 長井に隣接する最上川流域町村との連携によるアルクセッションの拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アルクセッションを、最上川リバーツーリズムネットワーク及び白鷹町の関係者の連携・協力の下、実施した。</li> <li>●今後の流域連携の可能性を確認できた。</li> </ul>

#### － 4）水源地域を担う人材育成

・本調査にて実施した「水源地域を担う人材育成」は、次のとおりである。

項目	実施概要	対象	実施日
①アルクセッション連絡会議における助言・提案	助言・提案	アルクセッション連絡会議 参加団体	8月～10月
②研修会の実施	企画、実施	流域で活動するNPOや観光ガイド	12月5日
③平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修派遣	派遣	最上川リバーツーリズムネットワーク	9月16日～18日
④都内旅行会社等への企画提案出張	支援、同行	最上川リバーツーリズムネットワーク	2月22日～23日
⑤「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2010」企画提案へのアドバイス	助言	最上川リバーツーリズムネットワーク 等	1～2月

#### <研修会の実施概要>

- ・研修会は、平成21年12月5日（土）の午前10時～午後4時、長井市小桜館1階ホールにて、実施した。
- ・当日は、長井市を始め、最上川沿川の白鷹町、朝日町、大江町、寒河江市、その他の地域から24人の参加があった。

時間	講演者	テーマ
10時～ 12時	安藤正一氏（日本ウォーキング協会・健康ウォーキング指導士）	長井のフットパスから最上川全川のウォーキングへ
昼食後	安藤正一氏 屋外：正しいウォーキング（ウォーキング前後のストレッチ体操含む）	
13時～ 14時	菅野志郎氏（しらたか旅先案内人） 宮本建一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会） 石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）	「まぼろしの左荒線街道ツアー」を終えて～流域連携による地域の魅力の発掘・発信と今後の課題
14時～ 15時	野村浩志氏（山形鉄道株式会社代表取締役社長）	ローカル線はすばらしい観光資源！
15時～ 16時	参加者による活動紹介及び意見交換	

### 3. 今後必要な取組

本調査により、長井市内における実施体制の構築、地域の魅力の掘り起こしによるイベント内容の充実化、広報活動の連携化、流域や東京の組織（大田区観光協会等）とのつながりができたことは、自立化・持続化のための仕組みが構築できたと言える。

しかし、その仕組みを実際の歩くことをテーマとした観光商品（ツアーイベント等）として育てていくことが重要である。その際、検討する事項としてはつぎのような点があげられる。

- ①ツアーの安全対策及び集団歩行のノウハウ
- ②いわゆる着地型観光の集客能力、及び東京・仙台圏からの集客
- ③全体を取りまとめるコーディネーターの設定
- ④広報費用の捻出
- ⑤地域内のさらなる協力体制の確立
- ⑥東京都大田区観光協会等との連携
- ⑦流域連携に向けた体制づくり

## 4. 調査概要の英訳

### **Review of 2009 study on activation of reservoir areas (Mogamigawa river basin)**

#### **I. Aim of study**

The aim of this study centered on the Mogamigawa river basin was to undertake planning and development of a tourism product event (“*Aruku* session”) based on the theme of walking, implement tours, conduct evaluations, and construct a framework to ensure self-reliance and sustainability based on the results of the previous year’s study.

#### **II. Content of study**

##### 1. Content of implemented actions

##### i. Support of planning and preparation for “Mogamigawa *Aruku* Session ‘09”

Based on issues arising from the previous year’s event, the study looked to support the planning and preparation of the “Mogamigawa *Aruku* Session ‘09” event. Specifically, this involved:

- Proposal of planning content for rediscovering regional attractions
- Construction of an implementation structure
- Proposal and implementation of a PR strategy that included use of a Tokyo office
- Construction of a structure that would enable the independence and sustainability of events from the following year through partnerships with local authorities and NPOs in the river basin area

##### ii. Fostering leaders of reservoir areas

This involved the planning and holding of training seminars for fostering leaders of reservoir areas for organizing and running the “Mogamigawa *Aruku* Session ‘09” event.

##### iii. Modeling of acquired knowledge

This used the knowledge obtained from i. and ii. to collate points for use as reference in initiatives involving other river basins.

##### 2. Study results

i. Proposed planning content for rediscovering regional attractions: Through activities such as tasting of regional produce, quizzes on local stores, and special discounts, the study established opportunities for locals and visitors to interact. This produced event content that allows visitors to not just visit famous tourist spots in package tours, but to actually

experience the appeal of the region itself.

ii. Construction of implementation system: Implemented a liaison and coordination system linking the city of Nagai's institutions, and used this partnership in constructing the first system within Nagai capable of implementing events.

iii. Strategic partnership for PR activities: Bore 20% of the costs in implementing advertising campaign that reached 100,000 households in conjunction with the Yamagata Railway Company.

iv. Use of the Tokyo office: Developed a relationship with the Ota Tourist Association through an office in Ota City, Tokyo.

v. Initiatives within the river basin: Implemented events and training seminars in partnership with local authorities and NPOs active in the Mogamigawa river basin.

### **III. Necessary future measures**

The results of this study show that a structure of self-reliance and sustainability has been created. This is based on the development of an implementation system within the city of Nagai, completion of events for uncovering the region's attractions, development of partnerships in PR activities, and the forming of partnerships with organizations in both the river basin area and in Tokyo (such as with the Ota Tourist Association).

Despite such successes, developing tourism products (such as tours and events) based on the theme of walking is an important issue. This study has highlighted the following points requiring further study.

1. Establishing an organization and planning content to act as the central pillar of the river basin.
2. Completion of an implementation system through the installation of an independent coordinator to perform planning and progress management.
3. Development of connections with local authorities and NPOs in the river basin area, and with the Ota Tourist Association in Tokyo.

<翻訳原文>

## 平成21年度水源地域活性化調査（最上川流域）概要報告

### 1. 調査の目的

平成20年度の成果を受け、最上川上流域を中心にした歩くことをテーマとした観光商品であるイベント（アルクセッション）の企画開発、ツアー実施、評価を行い、自立化・持続化のための仕組みを構築することを目的とした。

### 2. 調査内容

#### （1）事業の実施内容

##### ①「最上川アルクセッション’09」の企画・立案の支援

昨年度実施したイベントの課題を受け、「最上川アルクセッション’09」の企画・立案を支援した。具体的には、a 地域の魅力を再発見する企画内容の提案、b 実施体制の構築、c 東京事務所の活用を含めたPR戦略の提案と実施、d 周辺自治体や流域のNPOとの連携等を通じて、次年度以降のイベントの自立化・持続化のための仕組みを構築した。

##### ②水源地域を担う人材育成

「最上川アルクセッション’09」の主催者、運営主体に対して、水源地域を担う人材の育成のために必要な研修を企画・主催した。

##### ③得られた知見のモデル化

①、②から得られた知見により、他流域での取り組みに参考となる点を取りまとめた。

#### （2）調査の成果

①地域の魅力を再発見する企画内容の提案：地場産品を試食や商店クイズ、割引サービス等を通じて、来訪者と地域の方が話す機会を設ける場を設定し、単純に名所等を巡るガイドツアーからより地域の魅力を体験できるイベント内容とした。

②実施体制の構築：長井市内の諸機関が連絡調整を行い、連携しながらイベントを実施できる体制を長井市内で初めて構築した。

③広報活動の戦略的連携：山形鉄道との2割負担で10万世帯へ広報できた。

④東京事務所の活用：東京事務所のある大田区より大田区観光協会とのつながりを持てた。

⑤流域における取組：周辺自治体や最上川流域のNPOと連携して、イベントや研修会を実施した。

### 3. 今後必要な取組

本調査により、長井市内における実施体制の構築、地域の魅力の掘り起こしによるイベント内容の充実化、広報活動の連携化、流域や東京の組織（大田区観光協会等）とのつながりができたことは、自立化・持続化のための仕組みが構築できたと言える。

しかし、その仕組みを実際の歩くことをテーマとした観光商品（ツアーイベント等）として育てていくことが重要である。その際、検討する事項としてはつぎのような点があげられる。

①流域を束ねる軸となる組織や企画内容の確立

②企画や進行管理を行う独立したコーディネーターの設置による実施体制の充実化

③流域の自治体・NPOや東京都・大田区観光協会との「つながり」の育成

## 1. 業務概要

### 1.1 業務目的

上流の水源地域のみを対象にするのではなく、流域全体を調査対象として、流域活動に関心の高い住民や行政に限らず、流域活動に関心の高くない層の住民等も巻き込んだ上下流連携や都市部と水源地域との交流・連携等による水源地域の自立的・持続的な活性化活動を実施するための仕組みづくりについて調査・検討を行う。

### 1.2 対象地域

- ・最上川流域

### 1.3 業務概要

- ・業務名 : 平成21年度水源地域活性化調査（最上川流域）委託業務
- ・業務箇所 : 最上川流域
- ・工期 : 平成21年8月10日～平成22年3月25日
- ・発注者 : 国土交通省 土地・水資源局 水資源部 水源地域対策課
- ・受注者 : 株式会社 地域開発研究所

### 1.4 業務内容

本業務は、調査対象流域において平成20年度までに醸成された知見や人的ネットワーク・取組実績を更に発展させ、以下の調査・検討を実施する。

#### (1)業務内容イメージ

H19 年度：現状把握と取り組み方向性（テーマ）の設定（企画立案）

H20 年度：取り組み方向性（テーマ）の具体化に向け、実践（試行）と評価

**H21 年度：評価による課題を解消し、自立化・持続化のための仕組みの構築**

## (2)本年度の業務内容

### ① 最上川流域（テーマ：歩く）

歩くをテーマとした観光商品の開発、ツアー実施（試行）・評価及びこれらを通じた地域活性化活動モデルの検討を行うことを目的に以下内容を実施する。

●本年度実施予定の「最上川アルクセッション’ 09（仮称）」の企画・立案業務のために必要な調査を行い、主催者、関係者への支援を行う。調査内容には、必ず以下が含まれていなければならない。

①昨年度は長井市内での実施であったが、本年度は、周辺の自治体や長井市外のNPO（NPO 法人最上川リバーツーリズムネットワーク等）などと連携し、より広域の観光資源や人材を巻き込んだ形でのイベント実施に向けた調査・検討を行うこと。

②本調査終了後（平成22年度以降）、実施主体（長井まちづくりNPOセンターなど）により活動が持続できるような、収益モデルを十分に調査・検討すること。

③本年度開設される長井市及びNPO法人長井まちづくりNPOセンターの東京支所等を活用したPR戦略について調査・検討すること。

●上記の調査・検討結果を活用しながら、「最上川アルクセッション’ 09（仮称）」の企画・立案作業を全面的に支援する。

●「最上川アルクセッション’ 09」の実施に際して必要な連絡調整、関係者（JR東日本、山形鉄道など）への協力要請作業を主催者、関係者とともに行い、必要な支援を行う。

●「最上川アルクセッション’ 09」の実施経費の一部を本業務にて負担する。負担内容については、事前に発注者（国土交通省土地・水資源局水資源部水源地域対策課）に協議すること。

### ②水源地域を担う人材育成

水源地域を担う的確な知見と行動力を有する人材の育成について調査・検討する。具体的には、「最上川アルクセッション’ 09」の主催者、運営主体に対して必要な研修を企画し主催する。（参加者20人程度、2日間程度を想定）

### ③成果の取りまとめ

上記の①、②の調査結果を踏まえつつ、流域レベルでの水源地域の自立的・持続的な活性化活動のための仕組みづくりについて検討し、得られた知見を他流域での取り組みの参考となるモデル事例として取りまとめる。

また、過去の調査結果も踏まえ、他の水源地域市町村の参考となりうる情報はもろさず整理すること。

## 1.5 成果品の内容・部数

- ・水源地域活性化調査（最上川流域）報告書（A4判、ワープロ製本）5部
- ・上記電子媒体
- ・上記報告書の概要版及び英語概要版5部
- ・上記電子媒体

## 1.6 業務実施体制

管理者	伊納 浩	河川・地域計画部	次長
担当者	奥田 好一	河川・地域計画部	副主任研究員
	前田 格	河川・地域計画部	副主任研究員

## 2 . 平成 20 年度調査の概要と課題

「平成 20 年度流域一体化による水源地域活性化促進調査【最上川流域編】」の調査内容  
と課題は下記の通りであった。

### 2.1 調査の目的

- ・流域全体が一体となった水源地域の保全・活性化への取り組みを促進していくことが重要な課題となっている中で、最上川流域でこれまで展開されてきた個々の活動が相乗的に効果を発揮するための検討を進め、ソフト事業の充実・定着により流域全体の経済的な連携を促進した。

### 2.2 調査内容

#### ( 1 ) 事業の実施内容

山形県長井市を中心とする最上川流域一体化に向けての戦略の構築

- ・長井市では、長年にわたり、最上川沿いを歩けるように「フットパス」を整備してきた。また、(特)長井まちづくり NPO センターをはじめとする地域住民のネットワークが、地域活性化のために様々な地域づくり活動を行ってきた。このような積み重ねの中で、地域づくりに関するハードとソフトを一体的にマネジメントしていくことにより経済的な活性化を図ることが課題となっていた。また、マーケティングの観点から、昨今、都市住民などが健康に対して関心を高めていることが、水源地域が持つ良好な環境を活かした健康づくりと結びつくのではないかという議論も重なった。これらのことから、長井まちづくり NPO センター及び長井市役所職員が中心となって地元企業や地域住民を巻き込みながら、「歩く」をテーマに、水源林や水辺、水の郷・長井のまちを歩くツーリズム形成を戦略としてまとめ、2008 年 10 月の 1 ヶ月「アルクセッション」を展開することとした。

歩くツーリズム「アルクセッション 2008」の開催地元だけでなく、JR 東日本や山形鉄道の協力を得て、「アルクセッション 2008」を開催した。この間には、水源林散策や最上川散策、水の郷長井の散策などを中心に、伝統文化や地域産業、食文化などを楽しむプログラムを組み合わせ、1 ヶ月間で 7,800 人の集客を得た。

表 - 2.1 アルクセッション 08 の概要

開催日	開催テーマ（ツアー名）
10月10日（金）	豊かな自然と近代建築 ～ネコモにゃ～んとのんびりアルクツアー～
10月11日（土）	おきたま森の感謝祭 ～紅葉の野川源流をトレッキング～
10月13日（祝）	最上川発祥の地“ながい”を陸と川から眺めよう
10月18日（土）	長井奥地紀行 ～紅葉の最上川をアクティブに歩こう～
10月25日（土）	長井まちなか紀行 ～平成のイザベラバードと歩こう～

10月11日（金）

おきたま森の感謝祭  
～紅葉の野川源流をトレッキング～

オススメポイント

- 「野川まなび館」で野川の自然と歴史に触れ、上流へ。おきたま森の感謝祭「植樹、自然クラフト体験」。そしておいしく野外ランチ
- 最上川源流のひとつ、置屋野川の広葉樹林へ。心をリフレッシュする森林浴トレッキング

9:50発



●集合場所：山形鉄道長井駅 ●集合時間：9時40分 ●所要時間：6時間10分 ●募集人数：20名 ●参加費：¥450（入浴料/タオル持参）

●申込/問合せ：小桜館（担当高橋） ●電話/：FAX0238-88-9365 ●締切日：10月4日（土）

参加までのルート	(1)【仙山線】仙台駅(6:10発)→(7:37着)山形駅【奥羽本線】(7:40発)→(8:09着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:30着)長井駅 (2)【奥羽本線】福島駅(7:12発)→(7:59着)米沢駅(8:06発)→(8:20着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:30着)長井駅
解散までのルート	(1)【山形鉄道】長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:47発)→(18:18着)山形駅【仙山線】(18:45発)→(20:05着)仙台駅 (2)【山形鉄道】長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:03発)→(17:18着)米沢駅(17:45発)→(18:30着)福島駅
特記事項	(1)植樹や森のトレッキングとなりますので、適した服装でご参加ください。雨具もご準備下さい。 (2)昼食は各自ご準備下さい。なお、新米おにぎりをご希望の方は当日集合場所まで各自お求め下さい。(500円) (3)入浴料450円は現地で各自お支払い下さい。入浴時のタオルは各自ご持参下さい。
特典	★植樹参加者に緑のプレゼント(苗木1本)があります ★原材料費無料で自然クラフト体験ができます ★源流の森インタープリターがトレッキングガイド

10月13日(祝)

最上川発祥の地“ながい”を陸と川から眺めよう

オススメポイント

1. この日だけの紅葉の最上川を堪能してください。専門のガイドくづ流隊がご案内します。
2. 最上川散歩を楽しんだ後は長井流いも煮会。川岸に浮かぶゴミを拾って会場へ。いいことあるかも..

9:50発



●集合場所:山形鉄道長井駅 ●集合時間:9時40分 ●所要時間:6時間10分 ●募集人数:20名 ●参加費:¥1,000(保険料/いも煮)

●申込/問合せ:小桜館(担当池田) ●電話/FAX0238-88-9365 ●締切日:10月6日(月)

参加までのルート	(1)[仙山線]仙台駅(6:10発)→(7:37着)山形駅[奥羽本線](7:40発)→(8:09着)赤湯駅[山形鉄道](8:59発)→(9:30着)長井駅 (2)[奥羽本線]福島駅(7:12発)→(7:59着)米沢駅(8:06発)→(8:20着)赤湯駅[山形鉄道](8:59発)→(9:30着)長井駅
解散までのルート	(1)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅[奥羽本線](17:47発)→(18:18着)山形駅[仙山線](18:45発)→(20:05着)仙台駅 (2)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅[奥羽本線](17:03発)→(17:18着)米沢駅(17:45発)→(18:30着)福島駅
特記事項	(1)昼食は長井流いも煮。参加費はいも煮と飲み物代含みで1,000円(保険料含む)。集合時に各自お支払いください。 (2)悪天候の場合は川下りができない場合があります。
特典	★秘境、長井深流。そして置懸白川の合流地ビューポイント。最上川発祥の地の記念碑をご覧ください ★有機栽培で育てた里芋のいも煮は絶品!おいしい秋を堪能して下さい ★この日だけしか体験できない「最上川をボートで川下り」をお楽しみ下さい

10月10日(金)

豊かな自然と近代建築

～猫もにゃんとのんびリアルクツア～

オススメポイント

1. 明治・大正・昭和初期の近代建築と水踏や巨木など多くの自然が調和するまちなみをのんびり散歩
2. 普段は見られない近代建築の内部を特別見学できます

9:50発



●集合場所:山形鉄道長井駅 ●集合時間:9時40分 ●所要時間:6時間10分 ●募集人数:20名 ●参加費:¥1,000(昼食代)

●申込/問合せ:小桜館(担当菊地) ●電話/FAX0238-88-9365 ●締切日:10月3日(金)

参加までのルート	(1)[仙山線]仙台駅(6:10発)→(7:37着)山形駅[奥羽本線](7:40発)→(8:09着)赤湯駅[山形鉄道](8:59発)→(9:30着)長井駅 (2)[奥羽本線]福島駅(7:12発)→(7:59着)米沢駅(8:06発)→(8:20着)赤湯駅[山形鉄道](8:59発)→(9:30着)長井駅
解散までのルート	(1)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅[奥羽本線](17:47発)→(18:18着)山形駅[仙山線](18:45発)→(20:05着)仙台駅 (2)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅[奥羽本線](17:03発)→(17:18着)米沢駅(17:45発)→(18:30着)福島駅
特記事項	(1)昼食は長井の食材を使った季節のお弁当をお楽しみ下さい。(昼食代1,000円) (2)平成20年に登録文化財となった斎藤宅を拝見
特典	★長井アパレル(都屋)の内部を特別に見せていただき説明をしてもらいます ★あらまのやまいちお茶屋ではおいしい日本茶でおもてなし ★斎藤織物では長井紬の説明と機織をご覧ください

10月18日(土)

長井奥地紀行

～紅葉の最上川をアクティブに歩こう～

オススメポイント

- ゆったりと流れる最上川の桜大橋を渡り、さらに奥地へ。そこは自然と共存する不伐の森と、てしごと邑。
- おもいっきり森林浴をした後は柿・りんご・葡萄、実り豊かな大地の伊佐沢めぐり。

9:50発



●集合場所: 山形鉄道南長井駅 ●集合時間: 9時40分 ●所要時間: 6時間10分 ●募集人数: 20名 ●解散: 16時10分 ●参加費: 無料  
●申込/問合せ: 小桜館(担当高橋) ●電話/FAX: 0238-88-9365 ●締切日: 10月11日(土)

参加までのルート	(1)[仙山線]仙台駅(6:10発)→(7:37着)山形駅【奥羽本線】(7:40発)→(8:09着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:29着)南長井駅 (2)[奥羽本線]福島駅(7:12発)→(7:59着)米沢駅(8:06発)→(8:20着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:29着)南長井駅
解散までのルート	(1)[山形鉄道]南長井駅(16:24)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:47発)→(18:18着)山形駅【仙山線】(18:45発)→(20:05着)仙台駅 (2)[山形鉄道]南長井駅(16:24)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:03発)→(17:18着)米沢駅(17:45発)→(18:30着)福島駅
特記事項	(1)トレッキングコースとなりますので、水分補給・体調管理は各自行なって下さい。 (2)昼食は各自ご準備下さい。なお、新米おにぎりをご希望の方は当日集合場所で各自お求め下さい。(500円)
特典	★てしごと邑では、陶器・獅子頭などの匠の技、芸術作品をご買いただけます ★玉林寺では、おしょうさんから久保桜の伝説をお聞かせします ★こまっかなりんごの収穫最盛期。もぎたてのりんごをプレゼント

10月25日(土)

長井まちなか紀行

～平成のイザベラバードと歩こう～

オススメポイント

- 明治から昭和初期にかけて建てられた近代建築をめぐる、ちいさな秋の一日を平成のイザベラバードがご案内。
- 130歳の旧西置賜郡役所「小桜館」では、横丁アートセッション'08が開催中。袴で闊歩！ハイカラ気分。

9:50発



●集合場所: 山形鉄道長井駅 ●集合時間: 9時40分 ●所要時間: 6時間10分 ●募集人数: 20名 ●解散: 16時10分 ●参加費: 無料  
●申込/問合せ: 小桜館(担当菊地) ●電話/FAX: 0238-88-9365 ●締切日: 10月18日(土)

参加までのルート	(1)[仙山線]仙台駅(6:10発)→(7:37着)山形駅【奥羽本線】(7:40発)→(8:09着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:30着)長井駅 (2)[奥羽本線]福島駅(7:12発)→(7:59着)米沢駅(8:06発)→(8:20着)赤湯駅【山形鉄道】(8:59発)→(9:30着)長井駅
解散までのルート	(1)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:47発)→(18:18着)山形駅【仙山線】(18:45発)→(20:05着)仙台駅 (2)[山形鉄道]長井駅(16:22)→(17:00着)赤湯駅【奥羽本線】(17:03発)→(17:18着)米沢駅(17:45発)→(18:30着)福島駅
特記事項	(1)昼食は「小桜館」で開催の横丁アートセッション'08で各自お召し上がり下さい。 (2)長沼孝三彫塑館の入館料300円は現地で各自お支払い下さい。
特典	★なりきりイザベラバードと彼女の付き人イトウが、英語と方言でご案内！外国の方大歓迎！ ★横丁アートセッションでは、明治時代をテーマに様々な催しを開催中。お楽しみください ★藤道元 長沼酒造では酒蔵を見学し、地酒の試飲ができます

## (2) 調査の成果

### 「歩く」マーケットニーズの明確化

- ・全国各地でウォーキングへの関心が高まる中、アルクセッションの試行により、都市部住民に水辺を歩くというニーズがあることがわかった。また、最上川沿いに整備してきたフットパスの利用率を高め、長井ダム（整備中）の源流地域も歩いたことにより、都市住民の水源地域への関心喚起にも繋がった。

### 社会起業としての体制・仕組みの構築と課題認識

- ・地域づくりに関するソフト事業は、これまで一部の関心層の参加に限られがちだった。今回、歩くツーリズム「アルクセッション」を実施したことにより、住民個々の関心の度合いに応じた参加を促すことができた。また、いままでなかった来訪者が地域を歩くことにより、地域住民が商売を活性化させるためにはどうしたらよいかという問題意識を誘発させることができた。

### 今後のまちづくりの課題認識

- ・歩く楽しみを活かしたツーリズムを試行したことにより、結果として、景観への配慮不足やまちの案内板、交通安全性など様々な改善点を見出すことができ、長井市の今後のまちづくり課題が共有された。

## 2.3 今後、必要な取り組み

- ・初年度（平成 19 年度）の議論を通じて、長井は、「最上川」「水の郷」「水源地域」などの地域特性を持つものの、このような地域特性を生かしたツーリズム（観光振興）の取り組みが弱いことが認識された。また、地域特性を生かしたまちづくりの担い手として、「長井まちづくりNPOセンター」が熱心に活動していることがわかった。しかし、少人数で生業を持つ傍らの活動であることから、無償ボランティアのイベントが増えることは、かえってNPOの活動の衰退を招きかねないことが危惧された。このことから、収益性を期待できる事業を考える必要があった。関係者の議論を通じて、水に関する地域特性とツーリズムを結びつけるプログラムとして「歩く」をテーマに「アルクセッション」を企画実施することとなった。
- ・平成 20 年度は、実際に「アルクセッション」を試行した。実施に当たっては、JR東日本や山形鉄道の協力を得て、独自の観光商品として仙台圏や首都圏にプロモーションを行った。その結果、このような取り組みを地域活性化に結びつけるには、以下のような課題への対応が必要であることが認識された。

### アルクセッションのプロモーション方法の検討

プログラムの中心となっている長井まちづくりNPOセンターと長井市の協力体制の確立  
来訪者を迎え入れる地元商店の協力体制の確保

来訪者に買ってもらう長井ならではの商品（土産物等）の開発

単発イベントから継続開催するための収益モデルの構築

長井に隣接する最上川流域町村との連携によるアルクセッションの拡大

- ・平成 21 年度は、上記の課題解消を図りながら、経年開催可能な観光商品とするための方策を検討する。
- ・このことにより、NPOや長井市が、調査終了後も地域自らの力で水の郷の地域特性を生かした地域振興を推進できる体制を構築する。

### 3. 「歩く」ことをテーマとした地域活性化活動の支援

#### 3.1 実施体制の構築

- ・アルクセッション 08 は、長井まちづくり NPO センターが主催していた。しかし、長井まちづくり NPO センターは、少人数で生業を持つ傍らの活動であることから、無償ボランティアのイベントが増えることは、かえって NPO の活動の衰退を招きかねないことが危惧された。(平成 20 年度報告書より)
- ・上記の点を解決するとともに、観光まちづくりの視点から関係する団体の連携と、役割分担が必要であった。そこで、平成 21 年度は、アルクセッション 09 の実施に向けて、関係する団体を集め、定期的に会議を開催した。
- ・さらに、参加団体の役割分担を行うことにより、アルクセッションの運営の仕組みを構築した。
- ・具体的には、事業全体の窓口を長井市観光協会とし、企画・調整、広報は参加団体が担った。平成 21 年度においては、事業全体の調整や取りまとめを、長井市企画調整課で行った。

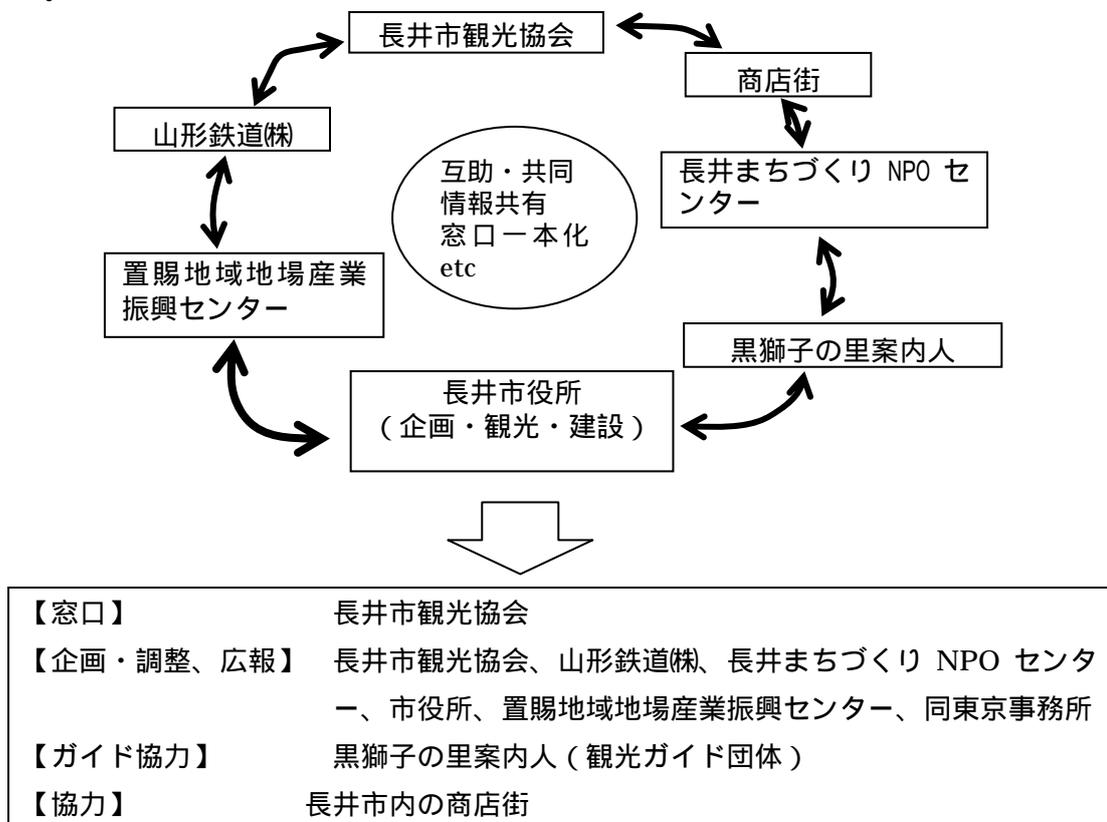


図 - 3.1 アルクセッション 09 の実施体制の構築と役割分担

### 3.2 アルクセッション連絡会議の開催

- ・ 企画内容の調整や、多様な団体間の役割分担の確認等の連絡調整等のために、定期的にアルクセッション連絡会議を開催した。
- ・ 連絡会議は反省会を含めて、5回実施した。

表 - 3.1 アルクセッション連絡会議の議題と提案事項

日程	議題	弊社からの提案事項
8月31日(月) 第1回 アルクセッション連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施体制と役割分担</li> <li>・ 10月の実施日と開催までのスケジュール</li> <li>・ ツアー企画検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルクセッション企画内容への提案：つまみ食いつアー等の企画提案</li> <li>・ 東京事務所の活用についての提案</li> <li>・ 弊社事業負担費についての説明</li> </ul>
9月14日(月) 第2回 アルクセッション連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ツアーの内容の確認</li> <li>・ 各ツアーのテーマ及びツアー名称</li> <li>・ 広報の実施方針</li> <li>・ 募集参加者数</li> <li>・ 収支計算及び参加費の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度実施していなかった安全対策(当初研修会で取り上げる予定の項目)について、対応策を提案</li> <li>・ アンケート内容について、修正提案</li> <li>・ 招聘旅行の実施について提案</li> </ul>
10月9日(金) 第3回 アルクセッション連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前の実施体制等の最終確認</li> <li>・ 研修会について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会の提案</li> </ul>
10月10日(土)	<b>アルクセッション 実施</b>	
10月17日(土)	<b>アルクセッション 実施</b>	
10月23日(金) 第4回 アルクセッション連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31日アルクセッションの確認</li> <li>・ 研修会実施に向けた流域活動の展開</li> <li>・ 研修会実施概要の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会内容及び講師の提案</li> <li>・ 招聘旅行についての確認(市内力ヌー団体や観光協会との懇談等の段取り)</li> </ul>
10月31日(土)	<b>アルクセッション 実施</b>	
12月14日(月) 第5回 アルクセッション連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 09アルクセッションの総括 - 反省点と次年度に向けた課題</li> </ul>	

### 3.3 企画提案

- ・本業務受注後、アルクセッション連絡会議にて下記のような提案を行った。なお、『水源地域を担う人材育成に関する事項』については、5章にて詳述する。

アルクセッション 09 の開催に関する事項

「つまみ食いツアー」等、ツアー内容についての提案

アルクセッションの的確な評価のための参加者へのアンケート項目について

安全対策についての提案

置賜地域地場産業振興センター東京事務所の活用方法

水源地域を担う人材育成に関する事項

人材育成のための研修会について、プログラムや講師についての提案

#### (1) つまみ食いツアー等、ツアー内容の提案

- ・平成 20 年度のアルクセッションの試行的実施後、平成 21 年度以降の課題として、「来訪者に買ってもらう長井ならではの商品（土産物等）の開発」があげられていた。
- ・しかし、本業務を開始した 8 月時点では、長井市内において商品開発に向けての具体的な動きはなかった。商品開発は、コンセプトの設定、試行品制作、マーケティング等の調査、再試行品制作、商品宣伝等、時間と経費がかかるものである。そのような時間的な余裕や経費を負担できる仕組みが長井市内においてはなかったのが、開発に至らなかった理由であると想定される。
- ・そこで、弊社は、地域の商品の掘り起こしを模索した。つまり、新たな商品を開発しなくとも、地域には来訪者にとって十分魅力的な商品があり、それを歩く観光形態の中で来訪者に的確にプレゼンテーションしてあげれば良いと考えた。
- ・今回は、「つまみ食いツアー」として、アルクセッションの中で店舗等に立ち寄り試食と説明をしてもらうよう試みた。
- ・今回の「つまみ食いツアー」は、地域の新たな魅力の発掘という点から、商店街ではなく、製造元で実施した。近在の人は商店街での試食は新鮮味がない可能性もあり、さらに踏み込んで製造元で直接話を聞く機会を設けた。通常は直接的に触れあう機会がなく、また、製造者の商品に対する思いを聞くことにより、近在の参加者にも新たな発見を提示できたと考えられる。このことが商品の買い上げにつながったと言える。
- ・また、昨年度のアルクセッションでは長時間にわたり歩くコース設定もあったが、参加者や実施した NPO の評価は高くなかった。参加者は適度な説明と、自由にまちを歩けることを望んでいると判断し、所要時間については 3 時間程度とすること、自由時間を設けることを提案した。
- ・自由時間については、商店街や市内のお菓子屋さんと連携し、参加者には割引で商品を

買えるように工夫した。

## ( 2 ) アンケート項目の提案

- ・昨年度のアンケート調査用紙や実施前に事務局から提示されたアンケート調査用紙では発地の記入欄がなかったり、実施したツアーへの評価が客観的に評価できないといった点で、今後の広報活動の展開等に利用しづらい面があったため、アンケート項目の追加や修正等を提案した。

## ( 3 ) 安全対策の提案

- ・アルクセッションの安全対策について、08 年度では保険のみしか考えなかったということがアルクセッション連絡会議を行う以前の打合せで分かった。アルクセッションの持続的な実施を考えた場合、主催者責任を考慮していく必要があり、安全対策の重要性や具体的な対応策を提案した。
- ・歩く観光形態で考えられる事故や突発的な病気は、交通事故、日射病・熱射病、心臓の発作等と想定される。交通事故や日射病・熱射病は、冷静ならばある程度の対処法については認知されていると考えられる。心臓の発作に関しては AED が必要となる。
- ・当初は、安全対策や、ガイドツアーにおける誘導等の集団歩行のノウハウ等について、アルクセッション前に研修会を開催することを提案したが、アルクセッションの企画と準備で精一杯との意見を受け、アルクセッション実施後に研修会を実施することとした。このため、アルクセッション 09 の実施にあたり、安全対策として、次の点を連絡会議で提案した。

アルクセッションの想定ルート及びその近隣の AED 設置場所を把握し、緊急時に利用可能な状況とすること。

アルクセッションに同行するスタッフに、山形県内で行われる、「赤十字救急法基礎講習会」、「赤十字救急法救急員養成講習会」を受けてもらい、必要な救急法を身につけてもらうこと。(講習会チラシを会議時に提出した。)

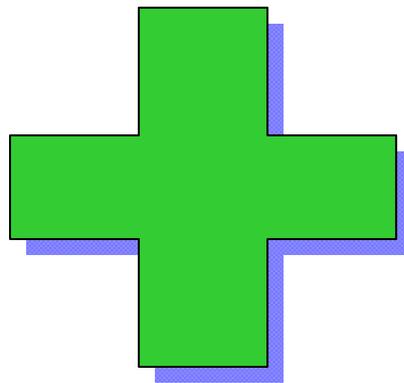
赤十字救急法基礎講習会開催要項		赤十字救急法救急員養成講習会開催要項															
<p>1. 主催 日本赤十字社山形県支部 共催 日本赤十字社山形県支部山形市地区</p> <p>2. 目的 赤十字では、多くの方々に、AED（自動体外式除細動器）を用いた救命手当を理解していただくとともに、その具体的な使用方法を習得していただき、それにより救命率がより向上することを願い講習会を開催します。</p> <p>3. 期日並びに会場 平成21年9月13日（日） 09時15分～13時15分まで 山形市江南公民館 第2研修室 （山形市江南1-1-27） TEL023-684-7397</p> <p>4. 講習内容</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">赤十字救急法 基礎講習</td> <td>学科</td> <td>手当の基本 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動）</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>傷病者の取り扱い 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道開放法）</td> </tr> <tr> <td>検定</td> <td>合格者に「救急法基礎講習修了者認定証」を交付</td> </tr> </table> <p>5. 受講に要する経費 1,500円 （教本代、教材【呼吸吹き込み用具】代、消耗品代、保険料）</p> <p>6. 受講申込みの方法等 （1）受講の条件 ・年齢が満15歳以上 （2）受講者の準備品等 ・筆記用具、トレーニングウェア等動きやすい服装 ・教材費は講習当日に徴収します （3）受講希望の方は、次の事項を明記のうえ、葉書等で申込みを行ってください。 （電話、FAXでの申込み）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①「9月13日開催の救急法基礎講習受講希望」と明記 ②氏名、③住所（番町字）、④生年月日、⑤性別、⑥電話番号</p> </div> <p>※上記②から⑥の個人情報については、講習会の受講申込受付に係る事務手続きにのみ使用し、それ以外には使用いたしません。</p> <p>（4）受講申込みの締切 平成21年9月7日（月） ・定員を30名とし、定員になり次第締め切ります。 ・受講希望者が若干名の場合、講習会の開催を見合わせますので、あらかじめご了承ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（〒990-0023） 山形市松波1丁目18-10 日本赤十字社山形県支部 事業推進課 【TEL:023-641-1353 FAX:023-641-8861】</p> </div>		赤十字救急法 基礎講習	学科	手当の基本 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動）	実技	傷病者の取り扱い 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道開放法）	検定	合格者に「救急法基礎講習修了者認定証」を交付	<p>1. 主催 日本赤十字社山形県支部 共催 日本赤十字社山形県支部山形市地区</p> <p>2. 目的 赤十字では、多くの方々に、傷の手当てや傷病者の搬送法などの応急手当に関する知識と技術を幅広く習得いただき、これを健康で安全な日常生活に役立てていただくことを目的として講習会を開催します。</p> <p>3. 期日 平成21年9月13日（日）、15日（火）、16日（水）の3日間 9月13日 14時～17時 9月15日 9時～17時 9月16日 9時～16時</p> <p>4. 会場 山形市江南公民館 第2研修室 山形市江南1-1-27 TEL023-684-7397</p> <p>5. 講習内容</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">赤十字救急法 救急員養成講習</td> <td>学科</td> <td>応傷の手当、止血の手当、骨折の手当</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>止血法、創傷法、固定法、搬送法</td> </tr> <tr> <td>検定</td> <td>合格者に「救急法救急員認定証」を交付</td> </tr> </table> <p>6. 受講に要する経費 1,500円（教本代、教材【三角巾の包帯、ガーゼ】代、保険料）</p> <p>7. 受講申込みの方法等 （1）受講の条件 ・年齢が満15歳以上 ・救急法基礎講習の修了者 （9月13日（日）9時15分から13時15分に開催予定の基礎講習受講修了者を指す） （2）受講者の準備品等 ・筆記用具、トレーニングウェア等動きやすい服装 ・服装は各自で準備します ・教材費は講習当日に徴収します （3）受講希望の方は、次の事項を明記のうえ、葉書等で申込みを行ってください。 （電話、FAXでの申込み）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①「山形市会場の救急法救急員養成講習受講希望」と明記 ②既に基礎講習の修了者については、「救急法基礎講習修了者認定証」交付年月日を記載 ③氏名、④住所（番町字）、⑤生年月日、⑥性別</p> </div> <p>※上記②から⑥の個人情報については、講習会の受講申込受付に係る事務手続きにのみ使用し、それ以外には使用いたしません。 ※当日に開催の基礎講習と併せて申込みいただく際は、併記について「山形市会場の基礎講習（9月13日）・救急員養成講習受講希望」とご記入ください。</p> <p>（4）受講申込みの締切 平成21年9月7日（月） ・定員を30名とし、定員になり次第締め切ります。 ・受講希望者が若干名の場合、講習会の開催を見合わせますので、あらかじめご了承ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（〒990-0023） 山形市松波1丁目18-10 日本赤十字社山形県支部 事業推進課 【TEL:023-641-1353 FAX:023-641-8861】</p> </div>		赤十字救急法 救急員養成講習	学科	応傷の手当、止血の手当、骨折の手当	実技	止血法、創傷法、固定法、搬送法	検定	合格者に「救急法救急員認定証」を交付
赤十字救急法 基礎講習	学科		手当の基本 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動）														
	実技		傷病者の取り扱い 一次救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道開放法）														
	検定	合格者に「救急法基礎講習修了者認定証」を交付															
赤十字救急法 救急員養成講習	学科	応傷の手当、止血の手当、骨折の手当															
	実技	止血法、創傷法、固定法、搬送法															
	検定	合格者に「救急法救急員認定証」を交付															

図 - 3.2 山形県内で行われる赤十字救急法基礎講習会等のチラシ

- ・アルクセッションに同行するスタッフ向けに「安全対策」とは何かや、AED の利用方法等をまとめたメモを作成し、配布した。そのメモを次ページ以降に示す。

## アルクセッション 09

### 安全面での配慮事項・メモ書き



このメモ書きは、安全面での配慮事項について、その一部を示したものです。  
なお、このメモ書きは参考に作成したものであり、これにより全ての安全性を確保  
できるものではなく、また、アルクセッション時の安全面での責任を負うものでは  
ありません。

**安全対策としては、事前対策、事故・急病発生時対策、事後対策があります。**

指導の成果と事故予防（川の安全な利用）

	指導法	法学	医学
事前	安全教育・計画	予防法学	予防医学
実施	安全指導法	判例	応急処置
事後	蘇生術	紛争処理	臨床医学

小谷寛二氏（呉大学社会情報学部教授）

**安全について全て知っている人はいません。それ故、役割分担が重要です。**

- ・ 責任に対する統一的な見解を全員で共有する。
- ・ 必要以上に「事故」を恐れる必要はない。
- ・ 安全について全てを知った人はいない。
- ・ 年齢による違いを考える。（高齢者、子供）

『「川に学ぶ」シンポジウム in 北上川』、1999

### **安全の標語（参考）**

5つの死角の標語

1. 「まさか」と思えば
2. 「ちょっと」待て
3. 「一歩」下がれば
4. 「ひょっと」する
5. 「いきなり・とっさに」気をつける

小谷寛二氏（呉大学社会情報学部教授）

## **事前の対策として、実施内容に併せて何が必要かを検討します。**

< 例えば・・・ >

### 当日携帯するものの準備

救急道具（行先により内容を変える）・・・中身の検討（リストアップ）とセット  
携帯電話（あるいはトランシーバーや無線）・・・危急時対応の連絡方法の確保、緊急連絡網の作成と携帯

### 当日の体制

本部の役割の確認（本部を設置するか。）  
本部の設置・・・例えば、NPO 事務所、市役所、観光協会等

### 連絡体制

本部と現場  
事故発生時等、緊急時に救急以外にどこに連絡するか。（本部、市役所、観光協会等）

### 危険箇所等の事前チェック（下見調査）

コースの危険箇所・危険要素を事前に把握  
コース中の説明箇所（立ち止まり箇所）での安全確保・・・足場、道路交通  
（下見調査では、トイレの場所の確認や、雨天時の対応策〔悪天候時の避難場所等〕も併せて調査します。）

### 参加者への事前連絡

参加者への事前安全対策の告知・・・適切な情報提供と危険箇所・行為等の告知  
（例えば、ボートに乗船する場合など）  
参加者への必要装具等の告知・・・コース内容に応じた装具を所持するよう事前に案内する。（街中、源流部、水上）

### 人員配置

引率者とガイドの事前打合せ（ガイドへの安全面での事前説明）  
参加人数に応じた、アルクセッション同行者の適正配置  
本部の事前指導・・・本部では、引率者・ガイドの技量及び経験度合いを把握し、必要に応じて指導

## AED の設置箇所と使い方の理解

コース上の最も近い AED の設置箇所の把握

AED の使い方についての理解

## 保険

適正な保険への加入・・・実施内容に合った保険に加入しているか。

保険の内容の説明能力・・・保険内容と手続きを参加者に説明できるか。

## 必要な技術を身につける！

救急法、リバーレスキュー技術等・・・講習会への参加（認定証の所持や資格保持者が同行していることを告知することが参加者の安心に繋がる）

## 実施日当日の対策を検討します。

< 例えば・・・ >

### 出発前

参加者の体調・検討状態の把握・・・集合時に、例えば、無記名アンケート方式で、本日の体調、睡眠具合、持病等について尋ねる。

当日の天候や、年齢（子供、高齢者等）により、当日の段取りを引率者・ガイド間で確認・・・歩く速度、安全対策、休憩時間、水分補給、トイレ等

### 歩行中

参加者の状況を常に把握・・・疲労、水分補給、飽き等。漫然とした歩行は事故を招きやすい。

天候に応じた対策・・・暑い時水分補給を勧めたり、寒い時トイレ休憩を加える等  
集団の状況に応じた注意喚起

例 おしゃべりに夢中な参加者がいた場合、間接的に注意喚起する。（「車が来るから注意してください」等）

例 間があいた場合、ひとかたまりとして行動できるよう注意喚起  
子供や高齢者が参加した場合、より事故防止の注意力が必要

### 事故発生時の役割分担

事故発生時、誰が何をどのように行うか。

アルクセッションの続行・中止の判断・・・続行の場合、引率者の誰が現場に残り、誰が引率するか。補充の人員を本部等から呼ぶのか。

### AED の使用

最寄りの設置箇所から機械を誰がもってくるか。

服をはだけるため、参加者に協力を呼びかけ、周囲の視線から遮断する



愛知県 HP <http://aed.maps.pref.aichi.jp/modules/tinyd2/content/index.php?id=3>

## 参考 AED の使い方について

AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

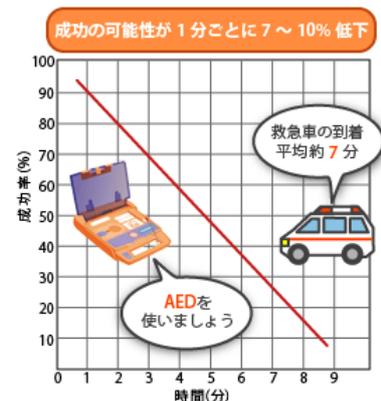
### 1分1秒でも早く

3分で脳死状態となる心室細動の場合、1分以内に除細動を行うと約9割の方が社会復帰でき、3分以内に行うと約7割以上の方が社会復帰できます。

電気ショックの成功率は成功の可能性が1分ごとに7～10%低下します。

日本では、救急車の到着まで平均約7分です。グラフから見ると、7分時の成功率は30%です。

救急車が到着する前に傷病者の近くにいる私たち一般市民がAEDを使用して電気ショックをできるだけ早く行うことが重要になります。



服を開けるため、女性の場合には特に配慮が必要。

### 使い方

AED を傷病者の左側に置いて、電源を入れる。	衣服を取り除き、胸部を裸にし、パッドを指定箇所に貼る。	心電図の解析をする。傷病者には触れない事。	解析の結果、必要な場合には音声ガイドに従い、除細動を行なう
<p>1</p> <p>傷病者の左側に置く</p>	<p>1</p> <p>パッド貼付け位置</p>	<p>解析中は傷病者に触れない</p>	<p>誰も傷病者に触れない事を確認し、ショックボタンを押す</p>

詳細は、愛知県制作の AED の使い方のパンフレットが下記にて見ることができます。

<http://aed.maps.pref.aichi.jp/uploads/AEDmanual.pdf>

### 参考資料

日本光電 HP <http://www.nihonkohden.co.jp/aed/index.html>

愛知県海部東部消防組合 HP <http://www.amatobu-119.jp/>

福岡県豊前市 HP <http://www.city.buzen.fukuoka.jp/new/aed/index.html>

## 参考 安全に関する「責任」について

どのような責任があるか（川遊びで発生する責任）

対応する責任 (Responsibility)	義務・責務・対応（道義的に誠意を持って対応すること）		
説明する責任 (Accountability)	説明する責任（被害者に対し説明を全うすること）		
法的責任 (Liability)	負債・債務責任・義務責任  (とるべき責任ととる必要のない責任の区分)	刑事責任 (故意または重過失)	過失傷害（刑法 209） 過失致死（刑法 210） 業務上過失致死傷（刑法 211） 暴行行為（刑法 208）
		民事責任 (故意または過失)	債務不履行責任（民法 415） 不法行為責任（民法 709） 過失相殺（民法 722-2） 使用者責任（民法 715） 土地工作物の占有者・所有者責任（民法 717） 国または地方公共団体責任（国家賠償法）

小谷寛二氏（呉大学社会情報学部教授）

何が責任を問われるか

- ・ 予見できる（できた）と考えられる注意義務を怠った場合
- ・ 予測不可能の場合は責任は問われない。ただし、事態の悪化を回避する義務はある。

訴訟判例における近年の社会通念（川の場合）

特に判断能力が低い子どもの活動に際しては、その主催者、引率者に対してより広範囲の指導監督責任が要求される。

河川は自然公物であり、流水等の自然現象により地形が絶えず変化するなど危険を内包していることから、その自由使用に伴う危険は原則として使用者の責任において回避すべきものとされている。

河川管理者の責任についてはある程度限定的に判断されているとはいえ、工事や構造物設置にともない人為的に新たな危険が生じた場合には十分な事故回避措置が求められる。

公園のように一般の利用を前提とした施設にはそれなりに高い安全性が求められる。

判断能力の低い子供が活動する個所・施設については、通常予想される子供の行動に対する高い事故防止措置が求められる。

施設の安全性については、施設設置後の維持管理においても留意する必要がある。

『「川に学ぶ」シンポジウム in 北上川』、1999

(4) 置賜地域地場産業振興センター東京事務所の活用方法

- ・当初は、(財)置賜地域地場産業振興センター東京事務所のある「大田区産学連携施設」のある梅屋敷商店街と長井市の交流を提案した。東京側の誘客の窓口として東京事務所を位置づけ、まずは交流のある商店街の人々から口コミで「長井」のファンを増やしていこうと考えた。
- ・当初、商店街の方々を招聘しようと考えていた際のシナリオは次の通りである。  
商店街の方々が長井産品を販売していただく際に、視察した内容を店頭で掲示していただき、購入等を通して商店街利用者への長井への認知度や興味を醸成していく。
- ・実際に商品購入がすぐに長井市への旅行に結びつくわけではないが、継続的な地場産品の販売を通じて、少しずつ長井への興味が深まるきっかけとなればと考えた。

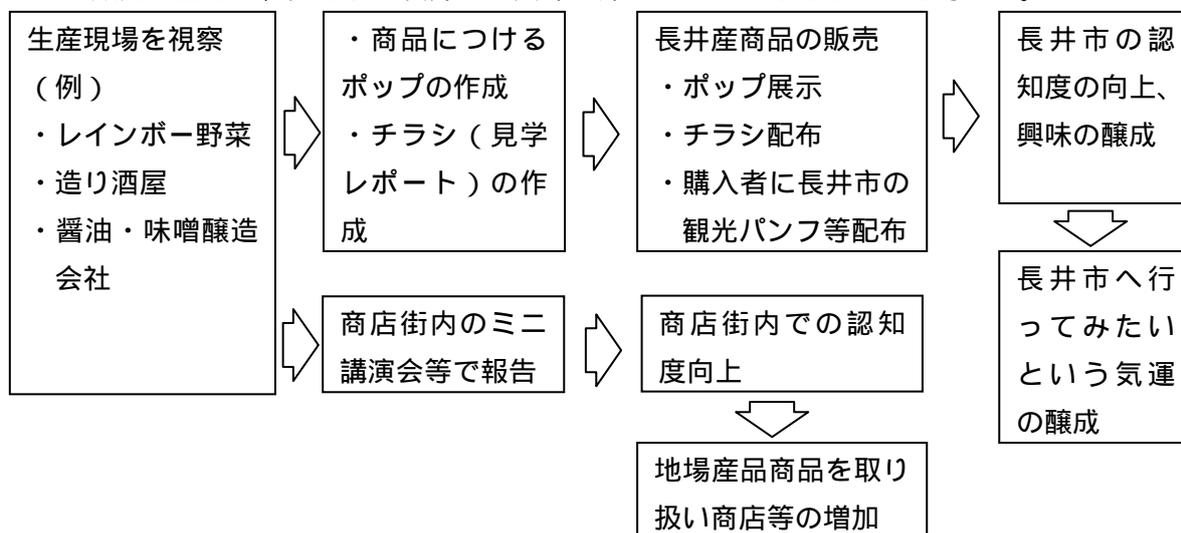


図 - 3.3 梅屋敷商店街との交流から長井への来訪につなげるまでの流れ

- ・今回、商店街の方々の参加は次の点で難しいとの判断をいただいた。  
10月には商店街のイベントがあり、準備や実施で忙しいこと。  
商店街は総菜販売をしているお店が多く、土日は稼ぎ時であり、休業することは難しいこと。
- ・次いで、大田区観光協会、梅屋敷商店街で講演活動等を継続的に実施している山形大学大田サテライトセンター職員(置賜地域地場産業振興センター東京事務所と同施設内に入居)等をご紹介いただき、参加依頼を行った。この中で大田区観光協会が今後の交流の可能性を示したため、大田区観光協会の方々を大田区と長井市との交流(多摩川・最上川カヌー交流)を目的に招聘旅行にお誘いすることとした。

表 - 3.2 招聘旅行実施までの経緯

9月1日(火)	東京都太田区にある置賜地域地場産業振興センター東京事務所にて打合せ 招聘旅行等について打合せ、大田区観光協会を紹介される。
9～10月	梅屋敷商店街、山形大学大田サテライトセンター等に対して、招聘旅行の案内を行うが、参加は得られなかった。
9月4日(金)	大田区観光協会へ挨拶、及び招聘旅行の趣旨説明、参加の同意を得る。
10月30日(金)	招聘旅行の実施(招聘者：大田区観光協会)
10月31日(土)	アルクセッション へ招聘者も参加

・招聘旅行の実施について、次ページ以降に示す。

### 3.4 招聘旅行の実施

#### (1) 招聘旅行とは

招聘旅行とは、ある観光地の観光組織（観光協会、商工会議所等）が、観光商品化を目指すために、旅行会社等を観光地に原則無料招待し、観光地を視察し、商談を進めるといふ観光プロモーションの手法である。

例えば、次のような招聘旅行がある。

##### 旅行会社の窓口担当者招聘旅行

- ・旅行会社の窓口販売担当者を招聘し、実地見聞と意見交換などを通じ、観光地の理解と認識を深めさせ、観光客の誘致促進に資する。また、旅行商品の開発をしてもらう。

##### マスコミ招聘旅行

- ・誘客したい地域の雑誌・新聞等のレジャー記者を観光地に招聘し、特集記事を掲載してもらう。

##### 修学旅行誘致のための招聘旅行

- ・これまで修学旅行に来訪していない地域の教育委員会や学校の修学旅行担当職員を招聘し、修学旅行先の視察等を通じて、観光地の紹介・宣伝を行い、修学旅行を誘致する。
- ・誘客したい地域の修学旅行を扱う旅行会社の修学旅行担当者を招聘し、修学旅行適地としての紹介・宣伝を行う。

##### テレビ番組担当者招聘旅行

- ・全国ネットで人気の高い旅番組や誘客したい年令層をターゲットにした特別番組の制作担当者などを招聘し、観光地の紹介・宣伝をする。

##### 海外の旅行会社を招く招聘旅行

- ・海外からの誘客のため、観光協会や商工会等が海外の旅行会社の商品企画担当者等を招聘する。

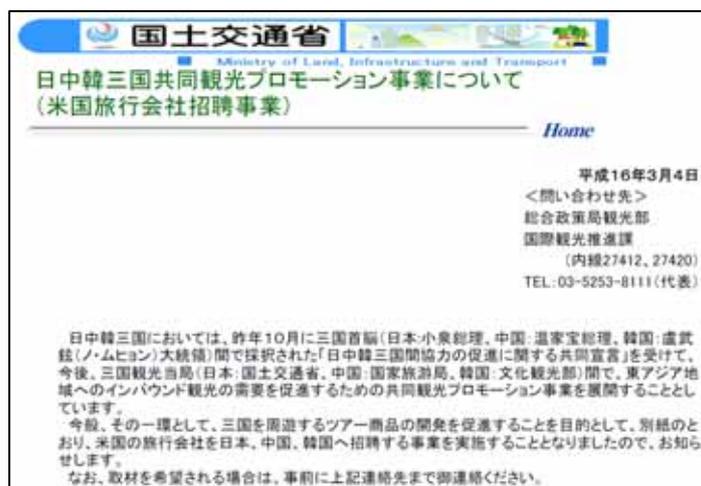


図 - 3.4 招聘旅行の例

## ( 2 ) 招聘旅行の戦略

- ・大田区観光協会のメンバーは、カヌー愛好者も多く、大田区内の運河等で通常は活動している。「ヘドロの多い運河よりも、たまには清流で楽しみたい」という意向があり、最上川のある長井市と大田区の交流に発展することが期待できた。また、カヌーを楽しむと共に、まちなかを案内し、より水のまちであることを意識づけることにより、長井の魅力伝えることができると考えた。今回の招聘旅行では、この点からカヌーの出発地点やまちなかを案内した。
- ・また、大田区観光協会は区内の様々な団体や個人とのつながりがあり、また、置賜地域地場産業振興センター東京事務所顧問と大田区観光協会職員が懇意にしていることもあり、口コミにより長井の広報が期待できるものと考えた。

## ( 4 ) 招聘旅行の実施

- ・招聘旅行の実施内容は次の通りである。

10月30日(金)

長井市内、「はせ川」そば店にて昼食 11:50～12:45
13:00～16:00 長井市内視察 <「レトロン」(クラシックカーを利用したジャンボタクシー)にて> <ul style="list-style-type: none"><li>・長井ダム</li><li>・最上川ビューポイント(松川・白川合流点)</li><li>・伊佐沢地区の久保桜</li><li>・最上川千本桜</li><li>・フットパスルート</li><li>・あら町(齋藤家住宅、山一醤油=見学、やませ蔵)</li><li>・總宮神社</li><li>・丸大扇屋</li><li>・中心部(長井小学校、桑島記念館、旧小池医院)</li></ul>
16:00～17:00 出羽の国漂流隊、長井市観光協会と意見交換
18:00頃～ 交流会
宿泊 ビジネスホテル長井屋

10月31日(土)

最上川アルクセッション 09 アルク体験ツアー 参加
長井駅 10時出発
長井駅 解散[14時40分]

	
<p>レトロバスにて案内。</p>	<p>長井ダムを視察。</p>
	
<p>最上川発祥の地点。ビュースポットを見学</p>	<p>景観とともにカヌーの利用の可能性について説明。</p>
	
<p>久保桜。置賜さくら回廊の一拠点であることを説明。</p>	<p>最上川河川敷。観光協会が花の咲く道として草花を植栽。視察時はそば。そば打ち体験等につなげていくことを説明。</p>
	
<p>江戸時代の船着場。</p>	<p>市内水路にて、水の町であることを説明。</p>



醤油醸造会社にて。産業と水の利活用について説明。



一宮神社。

重要文化財となった町中の茅葺きの家屋。



家の中に水を引き込んだ商店。



長井市や観光協会との交流

カヌー交流の実現に向け、地図で具体的に状況を説明。

- ・ 招聘旅行を実施するにあたり、下記のような資料を打合せ時に持参して理解と参加を求めた。

## 長井市アルクセッションへの招聘旅行について

**【実施日 : 平成 21 年 10 月 30 日 (金) - 31 日 (土) 一泊二日】**

平成 21 年 10 月

株式会社 地域開発研究所

### 1. 招聘旅行とは

観光地などが誘客目的で旅行会社の旅行商品企画担当者等を招待する視察旅行など。  
例えば、次のような招聘旅行があります。

#### ①旅行会社の窓口担当者招聘旅行

- ・ 旅行会社の窓口販売担当者を招聘し、実地見聞と意見交換などを通じ、観光地の理解と認識を深めさせ、観光客の誘致促進に資する。また、旅行商品の開発をしてもらう。

#### ②マスコミ招聘旅行

- ・ 誘客したい地域の雑誌・新聞等のレジャー記者を観光地に招聘し、特集記事を掲載してもらう。

#### ③修学旅行誘致のための招聘旅行

- ・ これまで修学旅行に来訪していない地域の教育委員会や学校の修学旅行担当職員を招聘し、修学旅行先の視察等を通じて、観光地の紹介・宣伝を行い、修学旅行を誘致する。
- ・ 誘客したい地域の修学旅行を扱う旅行会社の修学旅行担当者を招聘し、修学旅行適地としての紹介・宣伝を行う。

#### ④テレビ番組担当者招聘旅行

- ・ 全国ネットで人気の高い旅番組や誘客したい年齢層をターゲットにした特別番組の制作担当者などを招聘し、観光地の紹介・宣伝をする。

#### ⑤海外の旅行会社を招く招聘旅行

- ・ 海外からの誘客のため、観光協会や商工会等が海外の旅行会社の商品企画担当者等を招聘する。

## 2. 私たちが取り組む理由

- ・今回の招聘旅行は、国土交通省土地・水資源局水源地対策課発注の「平成21年度水源地域活性化調査（最上川流域）委託業務」により行います。
- ・本業務は、企画提案競争（プロポーザル）により弊社が受注しました。私たちは、下記の業務概要（波線部分）に対して、(財)置賜地域地場産業振興センター東京事務所のある「大田区産学連携施設」のある梅屋敷商店街との交流を企画提案しました。東京側の誘客の窓口として東京事務所を位置づけ、まずは交流のある商店街の人々から口コミで「長井」のファンを増やしていこうと考えておりました。
- ・今回、商店街の方々の参加は難しいとのことで、東京事務所顧問の桜井氏よりご紹介いただいた方々を招聘旅行にお誘いすることとしました。

### <業務内容>

- ・歩くことをテーマとした観光商品の開発、ツアー実施（試行）・評価及びこれらを通じた地域活性化活動モデルの検討を行うことを目的に以下の内容を実施する。
- (1) 最上川流域（テーマ：歩く）
  - ◆本年度実施予定の「最上川アルクセッション’09（仮称）」の企画・立案業務のために必要な調査を行い、主催者、関係者への支援を行う。調査内容には、必ず以下が含まれていなければならない。
  - ・昨年度は長井市内での実施であったが、本年度は、周辺の自治体や長井市外のNPO（NPO法人最上川リパーツリズムネットワーク等）などと連携し、より広域の観光資源や人材を巻き込んだ形でのイベント実施に向けた調査・検討を行うこと。
  - ・本調査終了後（平成22年度以降）、実施主体（長井まちづくりNPOセンターなど）により活動が持続できるような、収益モデルを十分に調査・検討すること。
  - ・本年度開設される長井市及びNPO法人長井まちづくりNPOセンターの東京支所等を活用したPR戦略について調査・検討すること。
  - ◆上記の調査・検討結果を活用しながら、「最上川アルクセッション’09（仮称）」の企画・立案作業を全面的に支援する。
  - ◆「最上川アルクセッション’09」の実施に際して必要な連絡調整、関係者（JR東日本、山形鉄道など）への協力要請作業を主催者、関係者とともに行い、必要な支援を行う。
  - ◆「最上川アルクセッション’09」の実施経費の一部を本業務にて負担する。負担内容については、事前に発注者（国土交通省土地・水資源局水資源部水源地域対策課）に協議すること。
- (2) 水源地域を担う人材育成
  - ・水源地域を担う的確な知見と行動力を有する人材の育成について調査・検討する。具体的には、「最上川アルクセッション’09」の主催者、運営主体に対して必要な研修を企画し主催する。（参加者20人程度、2日間程度を想定）

### 3. 私たちが参加者に期待すること

- 東京（大田区）と長井市の交流の支援を通じて、長井市への来訪者を増やすきっかけとしたいと考えています。

- ・当初、商店街の方々を招聘しようと考えていた際のシナリオは次の通りです。  
『商店街の方々が長井産品を販売していただく際に、視察した内容を店頭で掲示していただき、購入等を通して商店街利用者への長井への認知度や興味を醸成していく。』
- ・実際に商品購入がすぐに長井市への旅行に結びつくわけではありませんが、継続的な地場産品の販売を通じて、少しずつ長井への興味が深まるきっかけとなればと考えています。



- ・今回の招聘旅行後は下記のようないづれかでご協力いただければと考えています。資料作成では、弊社もご協力させていただきます。

- ①長井市産品の生産現場と商品紹介等について、梅屋敷商店街にて講演（見学体験の発表）をしていただく。発表にあたっては、置賜地域地場産業振興センター東京事務所や山形大学地域共同研究センター東京サテライト等のご協力を仰ぎながら実施したいと考えています。
- ②大田区と長井市との交流（多摩川・最上川カヌー交流）の企画書を作成していただく。

4. 行程は10月30～31日の一泊二日です。

10月30日(金)

●上野発	8:14	つばさ105号[山形行]
○赤湯着	10:38	
●赤湯発	10:59	山形鉄道フラワー長井線(普通)[荒砥行]
■長井着	11:33	
長井市内、そば店にて昼食(予定)		
長井市内 視察(レインパー野菜栽培農家、醤油醸造会社、最上川等を予定)		
夜 交流会		
宿泊 ビジネスホテル長井屋 (山形県長井市あら町4-48 電話 0238-88-2067 FAX 0238-88-2199)		
<a href="http://www13.plala.or.jp/otomari-nagaiya/">http://www13.plala.or.jp/otomari-nagaiya/</a>		

10月31日(土)

<b>最上川アルクセッション'09 アルク体験ツアー 参加</b>	
長井駅	10時出発
国指定有形文化財 鍋屋	
国指定有形文化財 長沼合名会社(酒造) <試飲>	
總宮神社 宝物殿見学	
丸大願屋	
小振館 横丁アートセッション (フリータイム:昼食あり)	
国指定有形文化財 芳賀醤油店	
お菓子屋さん巡り(フリー)	
桑島記念館 集合 見学	
長井駅	アンケート・解散 [14時40分]

[帰りは自由ですが、直近の電車は次のとおりです。]

●長井発	14:53	山形鉄道フラワー長井線(普通)[赤湯行]
○赤湯着	15:24	
●赤湯発	15:29	つばさ120号[東京行]
○上野着	17:50	

## (5) 招聘旅行の成果

- ・大田区観光協会と弊社の協議により交流に向けた企画書を作成した。

### 大田区・長井市 カヌー交流についての企画書

#### 1. 目的

- ・大田区と長井市間の人的交流
- ・【大田区サイド】大田区内カヌー団体の親睦
- ・【長井市サイド】カヌーの観光商品化に向けての実験的検討（観光モニター）

#### 2. 実施時期

- ・平成22年度、秋を想定

#### 3. カヌー想定コース

- ・カヌーの実施コースとしては、白川合流点（ビュースポット）～荒砥駅付近とする。



#### 4. 旅程（平成 22 年度秋季）

	午前	午後
第 1 日 目	移動	カヌーコース下見&道具確認、打合せ 【交流会】農家レストラン等
第 2 日 目	カヌー（A 班） 陸上併走・最上川ビューポイント立寄（B 班） 【昼食】芋煮会（秋季）	カヌー（B 班） 陸上併走・最上川ビューポイント立寄（A 班） ・温泉立寄
第 3 日 目	水の文化ツアー（醸造所、醤油製造元、丸大扇屋、長井ダム等）	移動

\* 交流目的及び安全対策のため、出羽乃国漂流隊と大田区民が併走する。

\* カヌーは現地でのレンタル及び持参する。

（現地でレンタルできるカヌー数：寒河江河川国道事務所・カナディアンカヌー 3 人乗 3 台・出羽乃国漂流隊 3 人乗 3 台）

#### 5. 費用の想定

・東京 - 長井市 往復交通費	約 2 万円	} 約 6 万円
・宿泊費	約 1.5 万円	
・昼食・夕食費	約 1.2 万円	
・保険・謝礼	約 6 千円	
・カヌー運搬車両費	約 7 千円	

#### 6. 将来展開

##### スケジュール

時期		概要
平成 22 年度	秋	大田区カヌー団体事務方 先発調査
平成 23 年度	春（桜開花時期）	大田区カヌー団体事務方 先発調査
	秋	大田区カヌー団体内 一般募集者

<平成 23 年春のカヌーコース>

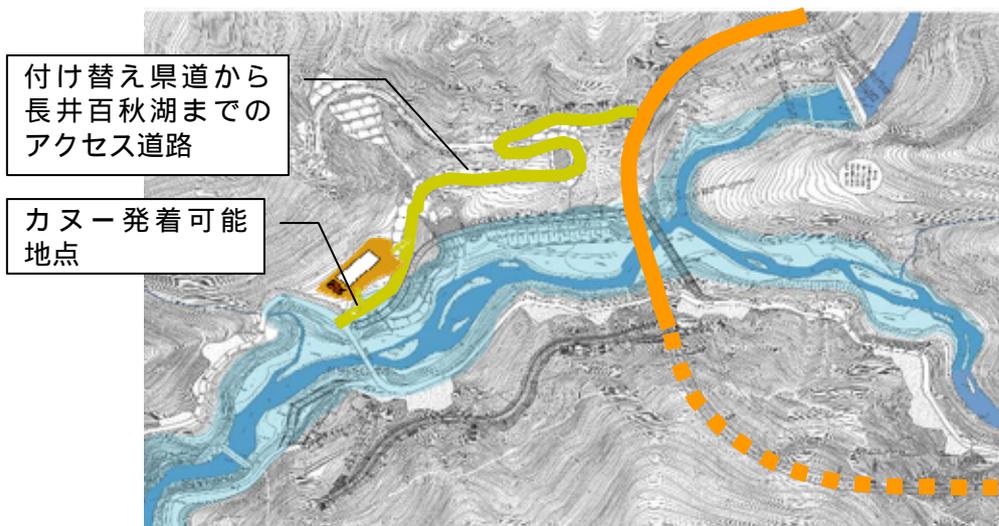
	午前	午後
第 1 日目	移動	カヌーコース下見&道具確認、打合せ 【交流会】農家レストラン等
第 2 日目	カヌー（A班） 置賜桜回廊・花見（B班） 【昼食】	カヌー（B班） 置賜桜回廊・花見（A班） ・温泉立寄
第 3 日目	水の文化ツアー（醸造所、醤油製造元、丸大扇屋、長井ダム等）	移動

カヌーの実施場所の拡大

- ・最上川をより下流側にする。（朝日町、寒河江市、大江町等）



- ・長井百秋湖（長井ダム）でカヌーを楽しむ。



付け替え県道から  
長井百秋湖までの  
アクセス道路

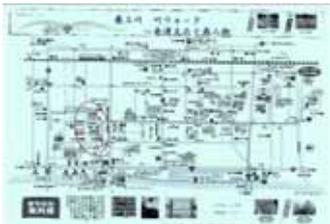
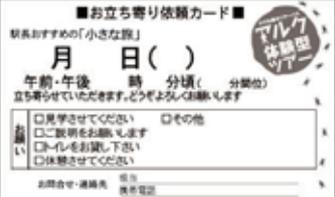
カヌー発着可能  
地点

長井ダム周辺環境整備実施計画書より

### 3.5 地域支援業務

- ・本業務による地域支援の一環として、広報活動を支援した。また、研修会の開催、NPOの都内旅行会社等への企画提案出張支援等を行った。
- ・広報活動の支援内容は次の通りである。

チラシ類	配布先	発行部数	総費用	本業務費用負担分
	山形県内陸部（南部） 山形市、上山市 南陽市、米沢市 高畠町、川西町 長井市、白鷹町 飯豊町、小国町 （新聞折込広告） 山形新聞、読売新聞	10万部 （新聞1ページ両面カラー印刷） 9/2、10/1の2回	150万円 （印刷、折込）	山形鉄道と連携事業 2割・30万円負担
	山形鉄道DM 観光協会DM NPO DM 観光協会HP フットパスHP NPO HP チラシ 長井市役所、 長井駅、地場産業振興センター	2,000部 （A4モノクロ両面）	10000円	10割
	参加者当日配布 駅に配置	100部 （A4モノクロ片面）	1000円	10割

	<p>参加者配布用</p>	<p>50部 (A3 カラー 片面)</p>	<p>2000 円</p>	<p>10 割</p>
	<p>観光協会会員 置賜地域観光スポット(米織、道の駅) 市内官公所、市内飲食 店、コンビニ、山形鉄 道各駅、米坂線各駅</p>	<p>5000部 (A4 モノク ロ片面)</p>	<p>20 千円</p>	<p>5 割 10 千円</p>
 	<p>長井駅に配置(両面印 刷)</p>	<p>200部 (A3 モノク ロ両面)</p>	<p>6000 円</p>	<p>10 割</p>
	<p>コース各商店へ配布 25 件分</p>	<p>100 枚分</p>	<p>456 円</p>	<p>10 割</p>
	<p>パスケース 10/17 参加者へ配布</p>	<p>50 セット (ホルダー 付き)</p>	<p>3570 円</p>	<p>10 割</p>

	<p>シール 商品、土産に貼ったもの</p>	<p>コース各店</p>	<p>300枚 (24枚シート)</p>	<p>21000円</p>	<p>10割</p>
	<p>イベント情報掲示板 (木枠、アルミ複合)</p>	<p>長井駅に設置</p>	<p>1基</p>	<p>45000円</p>	<p>10割</p>
	<p>アルクフラッグ(吸盤付きポール)</p>	<p>協賛店に設置</p>	<p>50セット</p>	<p>141477円</p>	<p>10割</p>

## 4 . アルクセッションの実施

### 4.1 アルクセッションの実施状況

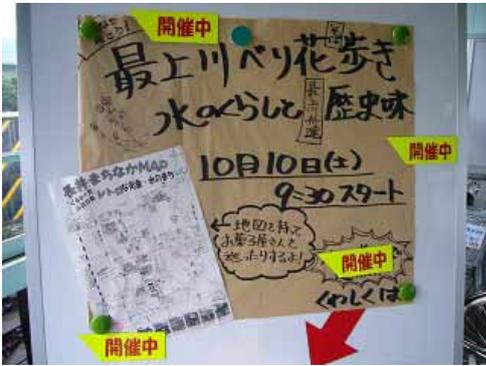
( 1 ) 第 1 回 ( 10 月 10 日 ) 開催

- 1 ) 概要

・ 10 月 10 日開催した第 1 回アルクセッションの概要を下記に示す。

開催テーマ	最上川べり花そばウォーク ~水のくらしと 最上川舟運 歴史味~
主催	長井市観光協会
所要時間	約 4 時間
参加費	700 円 ( 昼食付き )
参加定員	30 名
参加者数	18 名 ( 長井市 14 名、山形市 1 名、飯豊町 2 名、東京都 1 名 )
スタッフ対応状況	・ 同行スタッフ 3 名 ( 観光協会 2 名、長井市役所 1 名 ) ・ 小出船着場石碑前・説明地点 1 名 + 説明者 1 名 ・ 昼食会場設営数名
昼食	公園内にて芋煮を提供
参加者特典	おみやげ巾着を持っておみやげを買いと割引あり
コース	集合場所 山形鉄道 長井駅 9 : 30 9 : 40 長井駅出発 徒歩 最上川フットパスコース 徒歩 小出舟場石碑前 : 講和 “ 水のめぐみ 最上川舟運と水の文化 ” 徒歩 あら町散策 フリータイム : やませ蔵美術館 ( オプション ) 徒歩 《 昼食 : 白つつじ公園 》 徒歩 お菓子屋さん巡り ( フリー ) 徒歩 14 : 00 長井駅集合 解散

- 2 ) 実施状況

	
<p>長井駅にて受付</p>	<p>参加者が集合したところでコース説明等を観光協会職員が行う。</p>
	
<p>長井駅に設置された案内板。平成 21 年度業務による地域支援費より作成した。</p>	<p>案内板の拡大。マグネット式歩ワイドボードで記載や掲示が簡単にできる。</p>
	
<p>市街を歩く。</p>	<p>途中、池に金魚を見つけて寄り道。</p>

	
<p>市街を歩く</p>	<p>最上川へ</p>
	
<p>最上川堤防上</p>	<p>高水敷へ</p>
	
<p>最上川舟運について講師より説明</p>	<p>観光協会が管理する花畑。実施時点はそば。 (花の時期は過ぎていた)</p>



途中で第1回目のフリータイム。



フリータイム用の見所を記した看板



フリータイムは全員やませ蔵見学へ



やませ蔵内の水琴窟



個人宅にある水路の案内看板



この日は特別に私有地内の水路の見学を許可してもらい見学できた。



商店内の蔵や庭を特別に許可してもらい見学



	
<p>フットパスの当日用の案内表示</p>	<p>フットパスをゆく参加者</p>
	
<p>フリータイム。お菓子屋さんめぐり。</p>	<p>昼食は芋煮を提供</p>

### - 3 ) 工夫した点、評価点

#### ガイドについて

- ・観光ガイドは同行しなかったが、観光協会職員や訪問先の店主等による解説があり、中盤以降は比較的時間があくような感じはなかった。
- ・「最上川舟運」をコーステーマとしているため、船着場跡地では専門家による講話があった。参加者は近くの巨石ベンチに座るなどしてゆっくりと専門家の話を聞くことができた。

#### ルートについて

- ・比較的コンパクトなエリアで長井の魅力を示すルートであった。特に川から横断的にまちなかに移動していく中で、まちなかの水路や庭園内の水路や水琴窟、店舗併設住居の庭園での池や水路等、水を常に意識させるコース設定になっている。

#### 表記等について

- ・フリータイム用に独自の看板や案内表記を設置しており、また、同時に配布される地図によって、道に迷うことはなかった。看板にはこの地点でも見所が記載されており、興味をそそられて店舗等にも気軽に入れるようになっている。

#### その他

- ・フリータイムを3回設けるなかで、看板等で商店へ誘導する工夫もされている。それにより、商店の方とお話しができた、お茶をごちそうされたりと、地域の方々とのふれあいの機会があったことは参加者にとってもツアーを楽しめる要因であったと言える。

#### - 4 ) 課題

##### ガイドについて

- ・初めて具体的な説明が聞けるポイントが出発地の長井駅から最上川舟運の船着場跡地までなかったため、だらだらと歩いている印象を受ける。ツアー最初には参加者の気持ちを捉える「つかみ」が必要である。
- ・ガイド付きツアーだと思った参加した人には、説明が少なくもう少しいろいろな話を聞く場面があった方が良かったとの意見もあった。

##### ルートについて

- ・コンパクトであったが故に物足りなさを感じた参加者もいた。フリーで行ける範囲を広げるなどの工夫もあったと考えられる。

##### その他

- ・観光協会が管理しているそば畑は花が咲いていることを期待してルートに取り込んだが、時期的にそばの花は終わっていた。「花そばウォーク」と銘打ったが、花の開花期は企画時点や印刷時点では分からないことがあるため、テーマとすることは無理があった。あるいは、花を見せることをテーマとするならば、時期を遅らせて植え付けるなどの工夫が必要となる。
- ・お菓子屋さんめぐりでは、地図中に表記されながら休業中の店もあり、わざわざ尋ねていった参加者からは苦情の意見があがった。例えば前日の電話確認などにより、参加者の期待を裏切ることがないような対応策が必要である。

( 2 ) 第 2 回 ( 10 月 17 日 ) 開催

- 1 ) 概要

・ 10 月 17 日開催した第 2 回アルクセッションの概要を下記に示す。

開催テーマ	最上川 川ウォーク ~ 舟運文化と商人街 ~	
主催	最上川リバーツーリズムネットワーク	
所要時間	約 3 時間	
参加費	1000 円 ( 昼食付き )	
	長井コース	白鷹コース
参加定員	30 名	30 名
参加者数	25 名	10 名
スタッフ対応状況	同行スタッフ : 1 名 ガイド : 2 名	同行スタッフ : 名 ガイド : 1 名
昼食	はぎ苑・多夢炉	あゆ茶屋にて、あゆ弁当
コース	集合場所 はぎ苑 10 : 00 ( 長井駅 9 : 30 ) 9 : 30 長井駅 ( はぎ苑バス迎え ) 10 : 00 はぎ苑集合 10 : 15 出発 バス移動 10 : 20 宮舟着き場 10 : 40 最上川フットパス 10 : 45 やませ蔵 11 : 15 平野川 11 : 35 あら町通り ( 東講商人鑑 ) 11 : 50 本町 旧小池医院、桑島記念館 12 : 00 桑島記念館発 バス移動 12 : 10 はぎ苑 昼食 : はぎ苑 多夢炉	集合場所 はぎ苑 10 : 00 ( 長井駅 9 : 30 ) 10 : 00 はぎ苑発 ( はぎ苑のバス ) 10 : 15 最上川白鷹荒砥ビューポイント 最上川橋梁見学 バス移動 10 : 40 小松織物工芸見学 バス移動 11 : 20 つぶて石付近 ~ あゆ茶屋までフットパスを歩く ( 約 2 km ) 11 : 40 あゆ茶屋到着 11 : 45 昼食 ( あゆ弁当 ) 12 : 20 あゆ茶屋発 バス移動 12 : 40 第 2 会場 はぎ苑到着

ツアー終了後、13 時 30 分より「第 7 回最上川リバーツーリズムセミナー」を実施した。

- 2 ) 実施状況

白鷹コース

	
<p><b>【長井駅改札】</b> 長井駅に設置された本日のイベントの案内看板。改札を出てすぐの見やすい箇所に設置されていた。</p>	<p><b>【9:40・長井駅出発】</b> 電車で来訪された方をはぎ苑まで送るための送迎車が用意された。 利用者は数人であった。</p>
	
<p><b>【9:45・はぎ苑での受付風景】</b> コース毎に分けてのスムーズな受付作業が行われていた。</p>	<p><b>【10:00・はぎ苑出発】</b> はぎ苑のバスで荒砥に向かった。</p>
	
<p><b>【バスの車中】</b> コンダクターの加藤さんのご挨拶の後、白鷹旅先案内人の竹田陽子さんが車窓の文化施設などの紹介を行った。 受付で配布された資料を熱心に読む方も見られた。</p>	<p><b>【10:20・荒砥の最上川ビューポイント着】</b> 竹田さんから、兼続由来の稻成神社や近代土木遺産の最上川橋梁の説明などが行われた。 中でも昭和 36 年の古銭発見のエピソードの紹介は、参加者が興味深く聞いていた。</p>



**【10:30・頃鉄橋を列車が通過】**  
 予め計画したかのようなグッドタイミングでフラワー長井線が鉄橋を通過。  
 映画スウィングガールズの撮影時のこぼればなしなども紹介された。



**【10:30 頃】**  
 ビューポイント出発の前に、加藤さんから最上川リバーツーリズムで設置したベンチとサインの紹介が行われた。



**【10:35 頃・映画ロケ地の紹介】**  
 車中では竹田さんから荒砥の地名の由来や、地蔵の紹介、映画スウィングガールズのロケ地の紹介、遠景の山頂に見える雨量レーダーの紹介などが行われた。  
 目的地の織物工房到着前には、白鷹の織物の歴史と染料の栽培の紹介などが行われた。



**【10:37・小松織物工房到着】**  
 到着後、一同は工房棟に向かった。



**【10:40 頃・工房の見学】**  
 つむぎ織りの実演を熱心に見学する参加者。



**【10:45 頃・工房の方の説明】**  
 工房の方から織機や工程について説明していただいた。



**【10:50 頃・工房の母屋】**

白鷹つむぎに関する 10 分間のビデオ番組が上映された。  
展示されていた着物は参加者の注目を集めていた。



**【11:00 頃・工房の母屋】**

工房からお茶と和菓子が供され、工房の方への質問が多数行われた。



**【11:07・工房出発】**

荒砥駅へ向かう。車中では竹田さんから荒砥駅の歴史や鉄道と舟運の関係、荒砥銀座の桑市の話などが紹介された。



**【11:12・荒砥駅着】**

ここでトイレ休憩が設けられた。  
参加者は駅舎内の資料館を思い思いに見学していた。



**【11:20・荒砥駅出発】**

車中では竹田さんから、幻の左荒線とレトロバスの関係や、白鷹そばの紹介が行われた。



**【11:25・最上川フットバス出発地着】**

フットバスの到着地からのバスは乗ってきたバスと異なりあゆ茶屋のバスとなることから、参加者は荷物を持ったまま出発した。



【11:30 頃・フットパス途中】

以前、河原にあった料亭の風呂場の跡が現存していることが紹介された。



【11:35 頃・フットパス途中】

岩盤が露出している箇所では、あえて木道を外れて岩の上を歩く方も見られた。



【11:40 頃・つぶて石着】

竹田さんからの説明の後、参加者は思い思いにつぶて石を見学していた。



【11:45 頃・つぶて石】

つぶて石の裏側に回り、指の跡との伝承がある窪みを見学する参加者。



【11:50 頃・つぶて石出発】

バスの到着が少々遅れ、5分ほど待つこととなった。  
移動の車中では、竹田さんから黒滝の開削と舟運の関係について説明が行われた。



【12:00 頃・黒滝開削部の見学】

当初の予定には入っていなかったが、黒滝の開削部が見渡せる絶好の場所で3分ほどの見学を行った。  
予定外の行動であったこともあり、バスを駐車する場所を探すのに少々手間取っていた。



【12:05・あゆ茶屋着】

あゆ茶屋の最上川に面したテラスでの昼食であった。内容はお弁当とお茶であったが、おかずには地場の名産が多く含まれ、ロケーションもすばらしく、参加者は食事を楽しんでいた。

食後に売店でお土産を買う方も見られた。



【12:40・あゆ茶屋出発】

再びはぎ苑のバスではぎ苑に向かった。車中ではうたた寝をする方が多く見られた。



【13:00・はぎ苑到着】

はぎ苑では、今回のセミナーに合わせて開催されていた特別展を見学した。展示の中でも、昭和36年に最上川の河床で発見された小判は、参加者の注目を集めていた。小判の解説は白鷹町の職員の方が行っていた。



【13:15頃・特別展の展示室内】

最上川舟運に関連する様々な展示も行われており、参加者は熱心に魅入っていた。

## 長井コース

	
<p>はぎ苑における受付風景</p>	<p>アルクセッション・長井コースのスタート地点 ボランティアガイドよりも市職員が前にたちアイスブレイクを実施</p>
	
<p>ボランティアガイドによる案内 引率人数が多く声が十分に届かず、他のところを見る参加者もあった</p>	<p>長井のまちを発展させた河岸における説明板 ボランティアガイドの説明を聞き逃した参加者が説明板を読んでいる</p>
	
<p>ボランティアガイドの引率状況</p>	<p>ボランティアガイドから外れた参加者を案内する市職員</p>



国道を横断する時の安全対策が不十分



歴史的建築物での説明 全員が揃わない  
うちに一部の参加者が中に入ってしまった



まちの中にもうけられたフットパス



歴史的建築物の案内を聞く参加者  
車道に参加者が広がり危険を感じる



味噌屋での見学



味噌屋にあるオブジェを見る参加者



味噌屋にあるオブジェを見る参加者



セミナー会場に設置された展示物を見る参加者

### - 3 ) 工夫した点、評価点

#### 白鷹コース

- ・ 今回の白鷹コースは、移動や昼食時間を除けば実動2時間弱と短い時間であったが、内容は盛り沢山であり、参加者は一定の満足感を得たものと思われる。

#### ガイドについて

- ・ 「白鷹旅先案内人」が全体にわたりガイドを担当したが、車中を含めて、歴史的な舟運の話から現代的な映画のロケ、大河ドラマで人気沸騰中の直江兼続の話など多様なジャンルの紹介を含めて解説しており、参加者を飽きさせずに地域の魅力を効果的に伝達していたものと思われる。
- ・ 事後のアンケート結果からもガイドを評価する意見があった他、岩盤開削の史実が印象に残ったとの意見が複数見られたことも、ガイドの説明の巧みさに寄るところが大きいものと思われる。
- ・ 立ち寄り先の小松織物工房では伝統工芸士の小松氏ご本人からお話をいただいたが、専門的な話を情熱的に語ってくれたことで、参加者の印象に深く残ったものと思われる。

#### ルートについて

- ・ ビューポイントから最上川を見る、フットパスで最上川を歩く、地域の伝統工芸に触れる、地域の地場の食材（最上川の恵み）を食すと、バランス良く最上川に関連する地域の魅力を堪能できるコースであった。
- ・ 道中、イレギュラー的に黒滝開削部の見学を行ったが、雄大な眺めの中に古の人々の偉業を見て取ることができ、アンケート結果からも印象に深く残る体験であったことがわかる。

#### 地元店舗への立ち寄りや地元の方々とのふれあいについて

- ・ あゆ茶屋でのお弁当の食事は、アンケート結果からも印象に残ったこととして挙げている方が見られ、参加者の満足度は高いものであったと思われる。
- ・ アンケート結果からは織物工房への立ち寄りが印象に残ったと挙げた方が多く、地域性の強い伝統工芸の実演と、現場の方から話を伺えたことの効果が大きかったものと思われる。

#### 長井コース

- ・ 今回の長井コースは2時間程度のガイドコースであったが、長井市街地の主要地点を歩くことができるコース設定がなされ、最上川の自然や歴史、あるいは長井市街地の歴史や文化を楽しむことができたと考えている。

#### ガイドについて

- ・ ガイドの知識は豊富で、最上川の自然や歴史、あるいは長井市街地の歴史や文化について詳しい情報を聞くことができた。
- ・ しかし、声が小さい・歩きながら説明するためどの地点を説明しているか分かりづらいなどのガイドとしての技量不足が感じられる。

#### ルートについて

- ・ 最上川の自然や長井の歴史的な建造物を見て歩くなど、ルートの的には魅力あるものと感じられる。特に、最上川沿いのルートは開放感があり清々しい気分になれる。
- ・ また、ルート設定も最上川を歩きその後に長井市街地をあることから、最上川の舟運活動が長井の市街地をつくりあげたことを理解するのにわかりやすいものとなった。
- ・ しかし、ルート上に国道があり、その横断が危険なことから安全面からの工夫が必要である。

#### 地元とのふれあいについて

- ・ コースの設定上見るものが多く常に歩く状態であった。そのため、地元商店などへの立ち寄りが不十分であり、地元住民らとのふれあいがなく地元のボランティアガイドが案内している魅力を感じさせていない。
- ・ できれば、ガイドがお薦めのお土産等を紹介し、その土産物を求めるために商店に立ち寄り、その商店主と話しができるなどの工夫が必要と思われる。

#### - 4 ) 課題

##### 白鷹コース

- ・全般に、内容が盛り沢山であったにも関わらず、時間が短かったことが大きな課題であったと思われる。

##### ルートの設定

- ・今回のアルクセッションは「歩く」がテーマにも関わらず、フットパスを歩いた時間が約 30 分と、少々短い感があり、アンケート結果からも「もっと歩きたかった」との指摘が複数挙げられていた。
- ・アンケート結果からも、「時間配分が十分でなかった」、「もっと時間が欲しかった」との指摘が多く挙げられており、歩行や立ち寄り先での十分な時間の確保が求められていると判断される。

##### ガイドについて

- ・アンケート結果からは全般にガイドの評価は高いものの、車中ではマイクを使うべきだったとの指摘も見られた。
- ・アンケート結果から質疑応答の時間が欲しかったとの指摘があり、時間が限られていたこととも関連するが、参加者がガイドとのコミュニケーションをもっと求めているものと判断される。

##### 集団行動の管理について

- ・今回のアルクセッションはバスでの移動が主であったが、フットパスを歩いた際には広範囲に渡って参加者が散らばる現象が生じていた。今回の歩行区間は短かったことから得に問題は生じなかったものの、ガイドの役割として、案内だけでなく、参加者の安全を確保することが求められていることを強く認識する必要性が感じられた。
- ・また、歩行中も集団で動くことで、随所でガイドを行うことができるといったメリットもあることから、今後の改善が期待される。

#### 長井コース

- ・コースそのものには魅力が感じられるが、コースの設定時間が2時間程度と短く参加者は十分に楽しめないままに移動した印象があった。

#### ルートの設定

- ・長井市街地を生みだした最上川の舟運を紹介することから始まるコース設定は望ましいものの、今回のコースを2時間で回るには時間が不足している。
- ・そこで、今後は、コースを短くするか、時間を長くするかなどの工夫が課題となる。その点、午前中は最上川沿川をめぐり、午後は長井市街地をめぐりなど、午前・午後に分けるなどが考えられる。

#### ガイドについて

- ・ガイドとしての技量を高めることが課題となる。特に、説明内容よりも説明方法（マイクを利用する、歩きながら説明しない等）の技量を高めることが望まれる。

#### 地元とのふれあい

- ・商店主などの地元住民とのふれあいを高めるために、商店に立ち寄る時間を確保するなどの工夫が必要と考えられる。場合によっては、コース途中で集合場所と集合時間を決めておき、参加者が自由に商店街などをおくことができる工夫をするなどが考えられる。

( 3 ) 第 3 回 ( 10 月 31 日開催 )

・ 10 月 31 日開催した第 3 回アルクセッションの概要を下記に示す。

開催テーマ	長井に生きる町のお宝 ~ 歴史ある建物めぐり ~
主催	長井まちづくり NPO センター
所要時間	約 5 時間
参加費	1000 円
参加定員	30 名
参加者数	12 名 ( 長井市 4 名、白鷹町・朝日町 5 名、東京都・千葉県 3 名 )
スタッフ対応状況	・ 同行スタッフ 4 名 ( 長井市役所職員 1 名、他 3 名 ) ・ ガイド 1 名
昼食	横丁アートセッション内にて ( 500 円の引換券付き )
参加者特典	地酒の試飲。 おみやげ巾着を持っておみやげを買うと割引あり 国登録有形文化財を 3 カ所見学する。
コース	集合場所 長井駅 9 : 45 10 : 00 長井駅出発 徒歩 国登録有形文化財鍋屋本店 国登録有形文化財長沼合名会社 ( 酒造 ) 試飲 徒歩 總宮神社 宝物殿見学 徒歩 丸大扇屋 長沼孝三彫塑館 ( オプション ) 徒歩 小桜館 横丁アートセッション ( フリータイム ) < 昼食 > 国登録有形文化財芳賀醤油店 お菓子屋さん巡り ( フリータイム ) 徒歩 桑島記念館 徒歩 14 : 40 長井駅集合 解散

実施状況

<p>市職員による受付。NPO は別のイベントを実施しており、人手がなかった。</p>	<p>ツアー説明は観光協会が実施。</p>
<p>集団歩行の案内等ができていない。</p>	<p>ガイドの説明。聞き取れない。</p>
<p>本年度制作した旗</p>	<p>店先プレゼント</p>
<p>店先プレゼント</p>	<p>つまみ食いツアー（粕漬けの試食）</p>

	
<p>ハロウィンのため、神社でもあめを配布。</p>	<p>つまみ食いつアー（みそ製品の試食）</p>
	
<p>歴史的建造物の見学</p>	<p>横丁アートセッションと合流。昼食の場。</p>
	
<p>歴史的建造物の見学</p>	<p>歴史的建造物の見学</p>
	
<p>グンゼの見学。外から見学していたら門を開けていれてくださった。</p>	<p>終了後のアンケート記載状況</p>

### - 3 ) 工夫した点、評価点

- ・ 今回のコースは、アルクセッションの中で一番の長時間を要するコースであったが、途中での、製造元 2 箇所（味噌製造会社、酒造所）での試食や、同時に行われていた横丁アートセッションでの昼食休憩を含むことにより、時間を感じさせない、充実したツアーであったと言える。

#### ガイドについて

- ・ ガイドは初めてのルートであったにもかかわらず、事前の学習を行っており、長井市街地の歴史や文化について説明を聞くことができた。

#### ルートについて

- ・ 地元においても気づかない発見が多々あったとの意見もあり、今回実施した中で一番充実したツアーであったと言える。

#### その他

- ・ まちなかのガイド、商店街でのクイズ、製造所での試食、他のイベントとの合流等、様々な工夫がちりばめられ、参加者は新しい発見やお土産品の取得に喜んでいて、商店街との連携が効果的であった。
- ・ 試食ツアーでは店先の商品が売り切れる人気であった。地域・商店とのふれあいに、参加者も満足していた。

#### - 4 ) 課題

##### ガイドについて

- ・ガイドが先頭に立ち、誘導とガイドの双方を兼ねていた。このため、説明ポイントで立ち止まり説明を始める際に列の後方が追いついていなかったり、あるいは、説明ポイントでは参加者が安全に説明を聞くスペースが確保できていないなどの場面が見られた。
- ・事前にガイドと誘導スタッフが現地を下見し、参加者が確保できる説明ポイントについて打合せを持つべきであった。
- ・ガイドの声が交通量（車の騒音）に比べて小さいなど、説明を行っていても十分聞き取ることが難しかった。まちなかでは、ハンドマイク等の持参を検討すべきである。

##### ルートについて

- ・商店街や市街地をまわる場合には、安全対策が必要不可欠である。

##### 誘導及び安全対策

- ・説明を聞く際に、参加者が安全に聞けるような場所で立ち止まること、列の前後で列がとぎれないように誘導することなど、安全対策が十分に取られていなかった。
- ・また、複数同行しているスタッフの役割分担も不十分であった。
- ・列の最初の誘導、中程での間をあけないような誘導、列が長くなった場合の最後尾から列最前部への速度を遅らせたり、待ったりする指示等が十分出来ていない。集団歩行のノウハウの蓄積は今後の重要な課題である。

##### その他

- ・主催している長井まちづくり NPO センターが、同時に別のイベント（横丁あー戸セッション）を実施しており、主要メンバーはそちらのイベントに大わらわの状況であった。よって、アルクセッションについては、長井市役所職員らが受付やツアーに同行するなどしていた。連携した成果とも言えるが、主催イベントのため、ある程度、アルクセッションにも主要な人員を配置すべきではないかと考える。

## 4.2 参加状況及び参加者の意見

・参加状況及び意見は次のようにまとめた。

開催日		10月10日	10月17日	10月31日
ツアータイトル等		最上川べり花歩き 水とくらしと歴史味 ツアー	長井と白鷹を歩いて、 最上川と舟運文化にふ れよう	歴史ある建物めぐ り
参加者数		19名	長井コース：25名 白鷹コース：10名	12名
性別	男性	4名	14名	6名
	女性	15名	12名	4名
年代	10代未満	2名 [女2]	0名	0名
	10~20代	2名 [女2]	1名 [男0、女0、不明1]	0名
	30~40代	6名 [女2]	8名 [男4、女2、不明2]	3名
	50~60代	6名 [女6]	24名 [男9、女9、不明6]	7名
	70代以上	3名 [女3]	2名 [男1、女1、不明0]	0名
	不明・無回 答			2名
居住地	市内	13名		4名
	市外	5名(米沢、飯豊、 山形、白鷹)		5名(白鷹、朝日)
	山形県外	1名(東京都)		3名(東京都、千 葉県)
長井へ の来訪 度	初めて	4名(市外在住者)	4名	4名
	2~3回		6名	0名
	4回以上	4名(市外在住者)	13名	5名
	無回答		12名	3名
宿泊	宿泊	1名	5名	3名
	日帰り	18名	15名	5名
	無回答	0名	15名	4名
交通手 段	車	14名	27名	7名
	鉄道	1名	6名	3名
	徒歩	1名	1名	1名
	その他	3名	0名	0名
	不明	0名	1名	1名

開催日		10月10日	10月17日	10月31日
何人で参加か	1人	4名	9名	1名
	2人	4名	10名	8名
	3人以上	8名	16名	2名
	無回答	3名	0名	1名
誰と参加か	家族・親族		1名	1名
	夫婦		1名	0名
	友人・知人		11名	3名
	職場の人		6名	0名
	その他		2名	1名
	不明		14名	7名
情報源	市報		6名	
	市・回覧板		4名	1名
	新聞		3名	1名
	チラシ	4名	3名	2名
	友人・知人	7名		2名
	市役所	1名	} 19名	5名
	観光協会	1名		1名
	その他	1名		
	無回答	5名		
印象に残った場所	1位	いも煮	やませ蔵	歴史的建造物
	2位	街並み・風景	フットパス、市内の水路、やまいち醤油	丸大扇屋、総宮神社の紅葉、水路
	3位	やませ蔵、水路・小川	ガイド	(他の項目は全て回答1名で同列)
土産の購入	500円未満	1名	5名	1名
	1000円未満	7名	9名	2名
	1000円以上	8名	3名	5名
	購入せず		18名	1名
	不明・無回答	3名		3名
ツアー点数(平均)		8.7点	8.2点	8点
友人・知人への紹介	紹介したい	7名	17名	8名
	機会があれば	8名	15名	3名
	紹介しない	0名	2名	0名
	未回答	4名	1名	1名

印象に残った、風景、場所、物、ひと、話、匂い、食べ物

<p>10月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いも煮 7人</li> <li>・街並み・風景 6人</li> <li>・やませ蔵 4人</li> <li>・水路・小川 4人</li> <li>・ソバ畑 2人</li> <li>・最上川 2人</li> <li>・川沿いの道・フットパス 2人</li> <li>・いちまたの蔵 2人</li> <li>・会話・案内ガイド 2人</li> </ul> <p>・街中で説明があったほうが良い。 (建物・水路)</p> <p>・歩いて見えたきた風景に改めて懐かしさが蘇った。このような時間をもつことが時々必要だと感じた。</p> <p>・歩きで見えてくるところに四季の移ろいを感じられた。木の実、野の花 小川</p>	<p>10月17日【白鷹コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最上川の岩盤 3人</li> <li>・川底の舟道がはっきり見ることができてよかった。 2人</li> <li>・佐野原 2人</li> <li>・小松織物</li> <li>・白鷹紬工場</li> <li>・織物工房の方の話</li> <li>・川の中の岩を砕いた人達の話</li> <li>・料亭</li> <li>・鮎</li> <li>・つぶて石</li> <li>・ガイド</li> </ul>
<p>10月17日【長井コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やませ蔵 15人 (やませ蔵独自の佇まいが安らぎを感じさせる。)</li> <li>・フットパス 5人 (フットパスを歩きながら見る風景が大変よかった。)</li> <li>・市内の水路 5人</li> <li>・やまいち醤油 5人</li> <li>・ガイド 4人</li> <li>・やまいちお茶屋 3人 (お茶屋さんの椅子がよかった。)</li> <li>・小出舟着場 3人</li> <li>・風景 2人</li> <li>・古い町並み 2人</li> <li>・最上川の舟運について 2人</li> <li>・最上川の川面がよかった。</li> <li>・野呂川にゴミがなかったこと</li> <li>・ベルサイユ宮殿の河川公園</li> <li>・みそ蔵</li> <li>・美術館</li> <li>・もてなす雰囲気(人・話・お茶屋さん) 町の佇まいが心地よい。</li> <li>・旧奥羽銀行</li> <li>・味噌</li> <li>・醤油</li> <li>・西村久左衛門について</li> </ul>	<p>10月31日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的建造物 3人</li> <li>・丸大扇屋さん 2人</li> <li>・総宮神社の紅葉 2人</li> <li>・水路 2人</li> <li>・クイズの時に商店の人と話が出来たこと。</li> <li>・商店の人達が親切だった。</li> <li>・NPOスタッフ</li> <li>・歴史ある町並みを見て長井の良さを実感した。</li> <li>・小桜館</li> <li>・町家</li> <li>・駒屋</li> <li>・直江杉</li> <li>・最上川とダム</li> <li>・やませ蔵見学</li> <li>・小道・裏道</li> <li>・木村屋の折り紙</li> <li>・お茶・コーヒー</li> <li>・ポテトスナック</li> <li>・そば</li> <li>・駒屋さんの店先に干してあったいちじくとさくらんぼ</li> </ul> <p>・参加者と楽しくお話ししながら歩けたことや、道端の草木に目がとまり新鮮でした。横丁アートセッションでのフリータイムでは地元のイベントに触れられてよかった。</p>

## 土産品の購入

10月10日	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶やお菓子のサービス (20代女性)</li> <li>・お茶やコーヒーのサービス (40代女性)</li> <li>・お茶を頂いてくつろげた (40代女性)</li> <li>・一品から買えるところ (40代男性)</li> <li>・山形には無いお菓子が買えた (40代男性)</li> <li>・日ごろ行かないので (40代男性)</li> <li>・老舗の店での対話が懐かしかった (70代女性)</li> <li>・お茶、コーヒーのサービス (70代女性)</li> <li>・どの店も対応が良かった (50代女性)</li> <li>・お店の方との会話 (50代女性)</li> <li>・初めて入った店舗(白山堂本店)だがとても懐かしさを感じた (50代女性)</li> </ul> <p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各店、お菓子1個位サービスしてほしかった</li> </ul>																								
10月17日	<table border="1" data-bbox="491 952 1254 1093"> <tr> <td>お茶</td> <td>3人</td> <td>菓子</td> <td>3人</td> <td>漬物</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>味噌</td> <td>2人</td> <td>あげがらし</td> <td>2人</td> <td>マシュマロ</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>醤油</td> <td></td> <td>かりんとう</td> <td></td> <td>鮎の甘露煮</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本酒</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>購入しなかった人であつたらいいと思うお土産</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供へのお土産になりそうなもの</li> <li>・この地域でしか手に入らないもので、それが欲しくて長井まで来たくなるようなもの</li> <li>・土地を感じる事ができる、ちょっとした菓子類</li> <li>・やませ蔵のポストカード</li> <li>・長井紬の小物</li> <li>・味噌</li> <li>・醤油</li> <li>・お菓子</li> <li>・お酒</li> </ul> <p>時間がなくて購入できなかったという意見があつた</p>	お茶	3人	菓子	3人	漬物	2人	味噌	2人	あげがらし	2人	マシュマロ	2人	醤油		かりんとう		鮎の甘露煮		日本酒					
お茶	3人	菓子	3人	漬物	2人																				
味噌	2人	あげがらし	2人	マシュマロ	2人																				
醤油		かりんとう		鮎の甘露煮																					
日本酒																									
10月31日	<table border="1" data-bbox="491 1601 1254 1738"> <tr> <td>味噌</td> <td>4人</td> <td>お酒</td> <td></td> <td>米</td> <td></td> </tr> <tr> <td>野菜</td> <td></td> <td>きのこ</td> <td></td> <td>果物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>菓子</td> <td></td> <td>羊羹</td> <td></td> <td>輸入雑貨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>長井紬の札入れ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	味噌	4人	お酒		米		野菜		きのこ		果物		菓子		羊羹		輸入雑貨		長井紬の札入れ					
味噌	4人	お酒		米																					
野菜		きのこ		果物																					
菓子		羊羹		輸入雑貨																					
長井紬の札入れ																									

ツアーの点数・減点理由

<p>10月10日 《8.7点》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しいろいろな話を聞くところがあっても良かったのではないか（40代 男性）</li> <li>・木村家本店が閉まっていた。遠くから来た人に対しては距離と歩行時間が分かりやすいとよかった（40代 男性）</li> <li>・市外からの参加者が少なかったから（50代 女性）</li> <li>・もう少し時間が欲しい（50代 女性）</li> <li>・観光化するには、周辺環境整備が必要（50代 男性）</li> <li>・日頃歩かないので、街を味わうには体力をつけなと思いました（40代 女性）</li> </ul>
<p>10月17日 【白鷹コース】 《8.2点》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一箇所ずつの時間がなくて忙しかった。 2人</li> <li>・もう少し歩く時間をとってほしい。 2人（フットパスをもう少し歩きたかった。）</li> <li>・歩く距離が短い。</li> <li>・車の中での説明でマイクを使えばもっとはっきり聞けたと思う。</li> <li>・川にゴミが多いので、みんなでゴミ拾いの計画をしてはどうか？</li> <li>・質疑応答の時間を含めてもっと話を聞けるといい。</li> </ul>
<p>10月17日 【長井コース】 《8.2点》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し歩きたい。（最上川沿いを歩きたかった。） 5人</li> <li>・車道が歩きにくかった。 2人</li> <li>・ボランティアガイドさんの説明が大変判り易かったが舟運や経済の簡単な説明書き、パンフレットがあると全体像が分かるのでPRになると思う。</li> <li>・食としての（B級グルメ的な）賑わいが欲しかった。</li> <li>・仕掛け人が立派でも、一般市民が運営するのではいまいちだ。</li> <li>・自己紹介の場か話し合いがあればもっと素晴らしいと思う。</li> <li>・最上川舟運の詳しい説明やこだわった案内が欲しかった。</li> <li>・時間配分が十分でなかった。</li> <li>・時間がもっと欲しかった。</li> <li>・山一醤油であけがらし以外の加工食品等がお土産として多品種あるといい。</li> <li>・水路内に廃棄されたゴミ。</li> <li>・水路沿いの旧家の裏庭の荒廃。</li> <li>・ガイドさんの声が聞きづらい。</li> <li>・当時の生活を感じさせる写真があるとよかった。</li> </ul>
<p>10月31日 《8点》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道が狭く危険。 3人（歩道がなくて、車を気にしながら歩かなければならず、ゆっくり歩けなかった。）</li> <li>・ガイドの説明が聞きづらかった。 2人（先頭からはぐれてしまったのでガイドの説明が聞けなくて残念だった。）</li> <li>・時間に余裕がなかった。 2人（クイズとガイドとお土産やお茶の接待で忙しかった。）（もっと話を聞きたかった。）</li> <li>・案内板が欲しかった。</li> <li>・案内のパンフレットが欲しかった。</li> <li>・宝物殿が見たかった。</li> <li>* 歩道がない場所を歩いた際、不安に思われた方が多かった。安全に気</li> </ul>

	<p>をつけて、声かけするなど注意を払いながら事故のないようにしなければならなかった。</p> <p>* ガイドさんの声が後ろのほうまでは届かないみたいなので、ガイドさんにそのことを留意してもらい、説明してもらう形がよいのではないだろうか。</p> <p>* 簡単な案内文でいいので参加者に配ったほうが理解も深まると思う。</p>
--	---

### 魅力的なコースにするために必要なこと

10月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりの手入れ、花など風景作り (40代 男性)</li> <li>・途中で東屋の様な屋根つきの休憩場が欲しい トイレ、水飲み場が欲しい (40代 男性)</li> <li>・暑い時期は日陰が欲しい (30代 女性)</li> <li>・もう少し場所の説明があれば良かった (50代 女性)</li> <li>・もう少し目の付く処に案内や説明があれば気安く (50代 女性)</li> <li>・あまり手を加え過ぎないほうが良い (50代 女性)</li> <li>・フットパスコース周辺の整備、温泉宿泊 (50代 男性)</li> <li>・まちなかに入ると交通量が多い道路は危なく感じた (20代 女性)</li> <li>・シーズンを楽しめる花・緑を組み合わせる。買い物出来る産直(直売所)があるといい (40代 女性)</li> <li>・最上川で何か見るべきもの(目玉)があるといい (40代 男性)</li> <li>・歩数 『 歩で健康作り』というよに、健康面のPRすると良いと思う (40代 男性)</li> </ul>
10月17日 【白鷹コース】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舟の実物大の模型が展示されたら視覚的にも印象に残ると思う。</li> <li>・歩きながら見られる、持ち歩き用のガイドマップ(歴史や自然が詳細に記されているもの)</li> <li>・舟運時代の写真をガイドの方が常備して、説明のときに活用してくれると古の風景と現代の風景とが重なり、印象が深くなると思う。</li> <li>・川の中を歩いているが、川があまり見えないので見えるようにすればよい。</li> <li>・鮎とかの焼き魚をフットパス脇で食べられるスペースがあればいいのでは?</li> <li>・川下り</li> <li>・長井の最上川沿いにもあゆ茶屋のように川を眺めて食事ができる施設があってもいいと思う。</li> </ul>
10月17日 【長井コース】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備等の充実を計って欲しい。(畑や樹木) 3人</li> <li>(小道から川が見えるところが少なかった。もう少し草刈りしてあればよいのでは?)</li> <li>(フットパスと川の間)の樹木の整理)</li> <li>・フットパスをもっと長く拡げてみてはどうか。 2人</li> <li>・トイレがあればいいと思う。</li> <li>・いつも今回のようにゴミがないこと。その為には上流部に住む全ての市民が川・水を大切に市民運動のようなものが必要ではないか。</li> <li>・もっと歩けるコースが欲しい。</li> <li>・舟運の歴史をより感じることで出来る案内板のようなものが欲しい。</li> <li>・案内人がいなくても楽しめる案内板の充実</li> <li>・昔を感じさせる建物が川沿いにあるといい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドさんがグループの先頭に立つと話が聞こえないから、後ろか真ん中で話すほうがよい。</li> <li>・やませ蔵脇の水路沿いの道は手入れしたほうがよい。</li> <li>・自然で良い山間と整備が必要な山間に未整備と思われる箇所が伺えた。</li> <li>・小水路の清掃</li> <li>・畑の中を歩けると面白いのでは？</li> <li>・途中にベンチを設けて欲しかった。</li> <li>・長井の名産物試食大会等を入れるとより参加が増えると思う。</li> <li>・長井の特産品を歩きながらでもいいので多く紹介するといいいのかなと思う。</li> <li>・川辺の自然について話してみてもどうか。</li> <li>・「川」と「街」をつなげたこだわり</li> <li>・街中が歩行者に優しい街にしたい。</li> <li>・安全に歩ける道が欲しい。</li> <li>・駐車場の整備と停留所を増やし、そこを拠点とした街歩きにして欲しい。</li> <li>・通りに人がいないことが少し気になった。</li> </ul>
10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートセッションと同時に開催していて楽しかった。</li> <li>・何回も開催して下さい。同じルートでも別の切り口で見せるとか工夫をして楽しませて欲しい。</li> <li>・大変楽しかったです。普段は車でしか通らない道を歩いて、探検しているみたいでよかったです。</li> <li>・地元にはいますが、知らないことが多いと痛感。もっとPRして欲しいと思います。</li> <li>・長井市の町中には、歴史と伝統のあるお宝がたくさんあることが分かりました。それらの宝物について、物語があると思いますのでそれを調べて紹介していただければ、なお面白いツアーになるのではないのでしょうか。</li> <li>・歩いていて全然飽きることがなかったです。歴史的な建物が多く残っている町並みがとてもよかったです。またゆっくり歩いてみたいと思いました。</li> <li>・観光スポットを見直すと何か期待できる要素は感じた。</li> <li>・長井はなかなか面白い。まだまだ発展させる材料・資源が多いと感じた。</li> <li>・お陰様で大変楽しい一日でした。参加募集の仕方ですが、せっかくすばらしい企画なのに参加人数が少ないのが残念な気がします。市町村の組織や国体の長宛てに案内を出し、組織内の希望者を募るなどすると、その組織の募集にもなり、かつ長井のPRの強化にもなるのではないのでしょうか。</li> <li>・クイズもあって、プレゼントももらえて、運動にもなって最高でした。</li> </ul>

## その他

- お菓子屋めぐり（10月10日）に対するお菓子屋側の感想

萬寿屋	・いい企画だと思う。巾着があればツアー客がすぐわかりスムーズな対応ができる。
白山堂	・お客様との会話も楽しいし、少しでも良い対応（おもてなし）が出来れば売り上げにも繋がるので良い企画だと思う。
錦屋	・お客様も結構入り、コーヒー等飲んだり楽しんでもらったと思う。 ・今後も是非取り組んで行きたい。大歓迎
杵屋	・店の特典を全面的に出せると誘客にも繋がったとおもう。 ・取り組みは良い ・5%OFFのところ10%OFFで対応
風林堂	・お客様との会話がとても楽しかった ・この取り組みは良いと思う。 ・店の宣伝として菓子を差し上げた ・5%OFFのところ10%OFFで対応



### 4.3 反省会の実施

- ・長井市アルクセッション関係者反省会を平成 21 年 12 月 14 日に実施し、アルクセッション 09 を総括した。

今回のアルクセッションの意義について

関係機関と一緒に会議を行いながら、各々の役割分担を考えた上で実施した。

これまで意外に行っていなかったため、初めての試みであった。

歩く観光の「しくみづくり」を行ってきた。

予算が各々の機関でない中、できる範囲で取り組んだ点、「しくみづくり」への取組の中で新たな観光商品の可能性が見えてきたのではないか。

関係機関と協力して広報活動を行った。

チラシは山形新聞 3 万部配布、読売新聞 5 万部配布。

今回の課題等<フリーディスカッション>

- ・今回の実施にあたり最初 6 月末に集まり、それ以降検討してきた。しかし、10 月になるとそれぞれが忙しく連携がとれなかったと思う。一番情報交換をしなければならない時期にそれができなかった。企画検討や情報交換をもっと早くすべきだ。
- ・直前になって時間がなく、集まって詰めることができなかった。
- ・忙しいながらもよくできたと言えるのではないか。連絡を密にすればもっと中身が濃いものができるだろう。
- ・観光協会内でも今回のイベントの理解度はバラバラで、そこから引き起こす課題はあった。
- ・連携が十分とれていなかったと思う。各々の組織の役割分担が重要だ。今回のアルクセッションの企画では詰めの部分ができなかった。
- ・横丁アートセッションの会場担当だったが、そこに他のアルクセッションや山形鉄道主催の研修会の方々が来てくれてよかった。(複数のイベントがコラボするのは良い。)
- ・連絡調整会議では誰かが最後遣ってくれるだろうと言う状況もあった。会議での方向性が明確でなかったため、街歩きのガイドにどのように伝えるかわからなかった。案内人にどのように伝えて、気持ちよく実施して頂くか、伝えきれなかったかと思う。人と人のコミュニケーションが大事なので、そこを気持ちよく伝えていきたい。会議出席者以外に意図を明確に伝えるため、連絡調整会議の外からの視点も重要だ。
- ・地場産センターとして、もう少ししかかわりを持ってやっていければ良かった。また、情報を伝えられなかった面もある。
- ・10 月は従来からイベントが多く、それが重なって忙しい。一緒に広告を行うことと、どこの団体にも属していないで、トータルコーディネートできる人が必要だ。
- ・自由な意見交換と、各々ができることをやろうという考え方で始まった。最初は理想ば

かりでなく、迷惑をかけながらも実施していこうという考え方だった。その後反省をして次年度に気持ちをひとつにしてやっていく考え方で進んだ。

- ・長井という点だけでなく、面としての売り出しも重要だ。
- ・観光は遊びなので、遊び感覚で取り組む必要がある。
- ・連絡調整会議は当初任意で集まっている感じがあった。それが途中から「仕事」になった。
- ・来年は、長井高校開校 100 周年、あやめ公園 100 周年、ながい百秋湖完成と「100」つながりのイベントが多い。長井に関わる「100」を 100 個集めてイベントを開こう。
- ・次年度は商店街の参加が課題だろう。
- ・JRでは、「旅市」に関して長井を成功事例という形にもっていきたいと考えている。このような商品を他に波及していきたい。
- ・イベントは伝えるべき人にきちんと伝えていかないとうまくまわらない。まずは自分の組織内での情報伝達が重要だ。
- ・コーディネーターやプロデューサーが必要だ。その人は作業の渦の中に入ってはいけない。
- ・連絡調整会議の存在が不明確だった。市役所内でも課長も知らない状況があった。まず、会議は仕事なのか、ボランティアなのか明確にしないと出席しづらい。また、当日議論したことを構成する人に情報伝達しなければならない。行うべき事を意思統一できれば、組織化もできるだろう。
- ・仕事として場合、「課」の代表者という形で出席するのが良いのか。あるいは、気持ちのある人が出る方が良いのか。



[ 反省会の開催状況 ]

## 5. 水源地域を担う人材育成

### 5.1 実施の考え方

#### (1) 人材「育成」と「交流」

- ・水源地域を担う人材育成という観点から、対象者は①地域内で活動する観光ガイド、②ツアーを企画・引率する NPO 等、③流域活動を実施している NPO 等が対象者となる。また、対象者の特性に応じて、育成（研修）の方向性は異なってくる。
- ・長井を始め最上川沿川では各市町にフットパスが整備されてきている。フットパスの整備に伴い、各市町で活動する観光ガイドが誕生しているが、各々のノウハウや課題解決に向けての交流は行われていないのが実状であった。
- ・また、各々のフットパスは自治体内で完結しているため、他地域から来訪した人がさらに歩きたいという場合、自治体間は車等で移動しなければならない。自治体内で完結しているフットパスをつなげていくことが求められている。この点からも地域間交流の必要性が出ていた。
- ・今回の研修ではこれらの点から内容を検討していった。

表-5.1 水源地域を担う人材（対象者）と育成（研修）の方向性

対象者	活動エリア	研修の方向性の例
地域内で活動する観光ガイド	市町村内	ノウハウ的な研修（ガイドの方法＝話術、集団歩行のノウハウ、歩行中の安全対策）
ツアーを企画・引率する地域の NPO 等	主に市町村内	企画立案の視点、地域の新たな観光資源の発掘・発見、ノウハウ的な研修（歩行中の安全対策、救急救命対策）
流域活動を実施している NPO 等	流域	企画立案の視点

#### (2) 置賜地域地場産業振興センター東京事務所の戦略的活用

- ・今回は置賜地域地場産業振興センター東京事務所が所在する大田区との交流を目指した。当初は、東京事務所が梅屋敷商店街にほど近く、商店街のイベント時に地場産品を出店していることもあり、商店街の方々の交流を目指したが、時期的な課題があり、大田区観光協会との交流により、ファン層の拡大を目指した。
- ・また、ウォーキングイベントの開催では、コース設定等ノウハウや広報という面で日本ウォーキング協会との協力が必要となる。
- ・これらの東京における交流窓口として東京事務所の活用を検討した。東京事務所の職員

の「水源地域を担う人材育成」という点から、大田区観光協会へ同行していただいた。

- ・ただし、今回は行政間の連絡調整がうまく機能しなかったこと、東京事務所職員が年度途中で退職したことから実現は出来なかった。前者については、組織が置賜地域の地場産品の販路拡大を目指した組織であるため観光的な活動を目的としていなかったことから、事前の連絡調整が必要であったことが課題であった。また、NPOの東京サテライトは在京者の個人的な名称であり、組織として機能していたわけではなかったことも理由としてあげられる。

## 5.2 実施概要

- ・本調査にて「水源地域を担う人材育成」として実施した項目は次の通りである。

表-5.2 本調査にて実施した「水源地域を担う人材育成」

項目	実施概要	対象	実施日
①アルクセッション連絡会議における助言・提案	助言・提案	アルクセッション連絡会議 参加団体	8月～10月
②研修会の実施	企画、実施	流域で活動するNPOや観光ガイド	12月5日
③平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修派遣	派遣	最上川リバーツーリズムネットワーク	9月16日～18日
④都内旅行会社等への企画提案出張	支援、同行	最上川リバーツーリズムネットワーク	2月22日～23日
⑤「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2010」企画提案へのアドバイス	助言	最上川リバーツーリズムネットワーク 等	1～2月

## 5.3 研修会の企画と実施

### (1) 研修会の企画検討

- ・当初は、安全対策や、ガイドツアーにおける誘導等の集団歩行のノウハウ等について、アルクセッション前に研修会を開催することを提案したが、アルクセッションの企画と準備で精一杯との意見を受け、アルクセッション実施後に研修会を実施することとした。
- ・研修の内容については、長井市内のアルクセッションを企画している連絡会議に案を図り、また、10月に行ったアルクセッションの反省等も踏まえて検討していった。その結果、次のような項目で実施することとした。

研修会の演目の方向性	実施理由
まぼろしの左荒線街道ツアーの企画と実際	流域連携を模索する観点から、同時期に3町をまたいで行われていた「まぼろしの左荒線街道ツアー」の企画と実施した上での課題や今後の展望について話を聞く。
山形鉄道の活用	流域連携を進める上で、山形鉄道の活用は不可欠である。また、新社長が09年4月に公募で選ばれ就任したが、直接的な話を聞いている人が少なかった。山形鉄道の話作りや新たな旅行商品の開発に取り組んでいることから、話を聞くこととした。
日本ウォーキング協会	ウォーキング大会の開催による集客の可能性と、イベント実施までに取り組むべき事項を具体的にあげてもらい、ウォーキング大会の実施を議論する条件整理を行う。

- ・なお、検討した研修の内容では次のような内容もあったが、時期や話題性、流域連携を模索していく上での重要性・優先性から上記の内容とした。

- ①各市町別にあるフットパスを、市町間をまたいで連続化した「ロングトレイル」コース設定のためのワークショップ
- ②ツアー中の救急救命対策についての講演
- ③集団歩行のノウハウの講演と実習

- ・研修会は、最上川リバーツーリズムネットワークと株式会社地域開発研究所の共催として実施した。会場手配・講演依頼については、地域開発研究所が、広報や呼びかけは最上川リバーツーリズムネットワークが担当して実施した。

研修講演会  
のお知らせ

## 最上川沿川で「歩くツーリズム」を広げよう！

～未来につなげる、みんながつながる最上川～

最上川上流地域では、長井市・白鷹町・朝日町・大江町・萯河江市・村山市でフットパスが整備され、また、観光ボランティアガイドによる案内等も行われています。また、今年度、「まぼろしの左荒線街道ツアー」が大江町、朝日町、白鷹町の3町連携により企画・実施されました。そこで、歩くことをテーマとした観光商品の開発、ツアー実施やこれらを通じた地域活性化に向けて研修会を実施することとしました。

●開催日：平成21年12月5日（土） 午前10時～午後4時頃

●場所：長井市小桜館【旧西置賜郡役所】（長井市高野町2丁目7-28）

予定です

●内容（プログラム）

①10時～12時：安藤正一氏（日本ウォーキング協会・健康ウォーキング指導士）  
【テーマ】長井のフットパスから最上川全川のウォーキングへ（仮）

②13時～14時：菅野志郎氏（しらたか旅先案内人）  
宮本達一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会）  
石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）  
【テーマ】「まぼろしの左荒線街道ツアー」を終えて～流域連携による地域の魅力の発掘・発信と今後の課題（仮）

③14時～15時：野村浩志氏（山形鉄道株式会社代表取締役社長）  
【テーマ】歩くツーリズム～集客・交流のためのノウハウ、伝授します（仮）

15時～16時：参加者による活動紹介及び意見交換

\*本研修会は、国土交通省土地・水資源局（水源地対策課）発注の「平成21年度水源地域活性化調査（最上川流域）委託業務」の一環として、株式会社地域開発研究所が受託し、最上川リバーツーリズムネットワークとともに実施します。

※厚食は主催者側で用意します。

連絡先：NPO法人最上川リバーツーリズムネットワーク 担当：加藤  
電話 0238-84-2111（内）521 / FAX0238-84-5969（最上川ネット・加藤宛）



安藤正一氏（日本ウォーキング協会・健康ウォーキング指導士）  
【テーマ】長井のフットパスから最上川全川のウォーキングへ

●日本ウォーキング協会におけるこれまでのイベントの運営・実施等の経験に元、次のようなお話しをしていただきます。

①団体ウォーキングの基礎（ノウハウ）～見知らぬ人を打ち解けさせる方法、安全管理、コース管理等のノウハウ

②自身の九州一周徒歩ウォーク（1500kmを連続して歩く！）等の体験を交えて、最上川流域でのウォーキングの魅力と最上川全川ウォーキングイベントの開催の可能性や実現化に向けたシナリオ

菅野志郎氏（しらたか旅先案内人）  
宮本達一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会）  
石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）  
【テーマ】「まぼろしの左荒線街道ツアー」を終えて～流域連携による地域の魅力の発信と今後の課題（仮）

●11月中旬まで実施していた、「まぼろしの左荒線街道ツアー」を振りかえり、広域連携によるツアーによる地域の魅力の再発見、ガイドとしての地域の魅力の情報発信、ツアーを終了してみて感じた今後の課題等、具体的にお話し頂く予定です。ツアーが終了したばかりで旬なお話しが聞けることと思います。

野村浩志氏（山形鉄道株式会社代表取締役社長）  
【テーマ】歩くツーリズム～集客・交流のためのノウハウ、伝授します（仮）

●山形鉄道の社長公募に応募され、2009年4月に社長に就任された野村氏。前職の旅行会社勤務時代から現在まで様々なアイデアを実現し、集客に結びつけてきました。「街と鉄道を観光でつなぐ」ことをライフワークにされていらっしゃいます。今回は駅から観光客が歩き出す姿を想像しながら、歩く観光（ツーリズム）を実現していくために、集客や交流のノウハウをお話しいただく予定です。

会場（小桜館）案内




図-5.1(1) 研修会のチラシ（表）

(2) 最上川リバーツーリズムネットワークによる流域での広報及び連携活動

- ・研修会の広報活動と同時に、歩く観光形態を流域に広げていくために、最上川リバーツーリズムネットワークの事務局に流域の市町村に出かけていただいた。下記にその流域活動の概要を示す。

表-5.3 研修会広報を契機とした最上川リバーツーリズムネットワークによる流域での連携活動

出張日	訪問先	目的	面会者
9/4	白鷹町役場	広報・交渉	白鷹町産業振興課
9/7	白鷹町役場	参加依頼・交渉	白鷹町観光協会
9/10	白鷹町役場	参加依頼・交渉・打ち合わせ	しらたか旅先案内人
9/15	白鷹町役場	フットパス視察・打ち合わせ・ルート確認	エコウォーク
11/20	白鷹町役場	打ち合わせ	しらたか旅先案内
9/14	朝日町役場	広報・参加依頼	朝日町政策推進課
10/26	朝日町役場	広報・参加依頼・交渉	朝日町エコウォーク
11/25	朝日町役場	打ち合わせ	朝日町エコミュージアム案内人の会
10/22	大江町役場	広報依頼・参加依頼・交渉	大江町役場
11/26	大江町役場	打ち合わせ	大江町観光ガイドボランティア
10/21	寒河江市役所	広報・交渉	寒河江市商工観光課
11/27	寒河江市役所	広報依頼・参加依頼	最上川流域観光交流推進協議会事務局・NPO等団体代表合同会議
10/23	河北町役場	広報依頼・参加依頼	河北町観光協会
11/28	中山町役場	エコウォーク参加・広報	エコウォーク会員 25名
10/27	村山市役所	広報依頼・参加依頼	村山商工観光課

### (3) 研修会の実施

#### ①概要

- ・研修会は、平成 21 年 12 月 5 日（土）の午前 10 時～午後 4 時、長井市小桜館 1 階ホールにて実施した。
- ・当日は、長井市を始め、最上川沿川の白鷹町、朝日町、大江町、寒河江市、その他の地域から 24 人の参加があった。
- ・本業務では事務局として、当日の進行を最上川リバーツーリズムネットワークとともに担った。昼食については近場に飲食施設がないことや進行管理上から弁当を支給した。
- ・今後の参加者各人の交流が図れるよう、交流カード（名刺）を参加者に記入してもらい、研修会終了時に参加者に配布した。

#### ②研修プログラム

時間	講演者	テーマ
10 時～ 12 時	安藤正一氏（日本ウォーキング協会・健康ウォーキング指導士）	長井のフットパスから最上川全川のウォーキングへ
昼食後	安藤正一氏 屋外：正しいウォーキング（ウォーキング前後のストレッチ体操含む）	
13 時～ 14 時	菅野志郎氏（しらたか旅先案内人） 宮本建一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会） 石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）	「まぼろしの左荒線街道ツアー」を終えて～流域連携による地域の魅力の発掘・発信と今後の課題
14 時～ 15 時	野村浩志氏（山形鉄道株式会社代表取締役社長）	ローカル線はすばらしい観光資源！
15 時～ 16 時	参加者による活動紹介及び意見交換	

<当日の様子>

安藤正一氏講演



正しいウォーキング方法の講習  
(昼休み・屋外)



菅野志郎氏、宮本建一氏、石川博資氏の講演



野村浩志氏の講演



参加者による活動紹介及び意見交換



③講師について

安藤正一氏（日本ウォーキング協会・健康ウォーキング指導士）

北海道生まれ・千葉県在住

定年後ウォーキングをはじめ

平成14年～平成18年まで九州一周ロマンウォークにスタッフ（旗手・副隊長）として参加し、毎回1200km／55日間以上のウォーキングを実施

（社）日本ウォーキング協会の専門講師・本年9月から健康ウォーキング指導士第1期生としても活躍

・第1から5回九州一周浪漫ウォーク（H14からH18）（1回目＝68日間・1,500km）

旗手：連続5回、コース隊長：1回、副隊長：3回

・JWA企画委員会（九州一周浪漫ウォーク担当）H16～18

菅野志郎氏（しらたか旅先案内人）

宮本建一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会）

石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）

お三方とも地域で活動する観光ボランティアガイド。2009年「まぼろしの左荒線街道ツアー」ガイドを務める。

野村浩志氏（山形鉄道株式会社代表取締役社長）

2009年4月に「社長公募」により山形鉄道代表取締役に就任。

前職は、読売旅行山形営業所長。2004年には開設間もない山形営業所を3年で年商15億円に伸ばすなど、様々なアイデアで集客を実現してきた。個人的にも移動美術館（自分で描いた鉄道の絵）活動や、VWバスによる駄菓子屋活動等をしている。山形営業所時代から山形鉄道の活性化にもかかわり、社長就任後も様々な商品開発や集客のための企画を実行している。

④参加者：計24人（全日参加の講師含む）

	NPO等	観光協会	行政	一般
長井市	2	1	6	1
白鷹町	4			
朝日町	1		1	
大江町	3			1
寒河江市			1	
その他*				3

\*安藤氏（講師）、国土交通省職員、天童市各1名

⑤研修会の講演概要

**最上川沿川で「歩くツーリズム」を広げよう！**  
**～未来につなげる、みんながつながる最上川～**

平成21年12月5日

長井市小桜館

■講義1：長井のフットパスから最上川全川ウォークへ

講師 安藤正一氏

ア) 自己紹介など：

- ・何日前から、長井に来て、最上川沿川を歩いてみたが、水系がここに全て集まってきていて、すごくエネルギーを感じ、ここは大きな気の集まる場所であると思う。

イ) ヘルスウォーキング、エンジョイウォーキング、アクティブウォーキング：

- ・ウォーキングが体にいいことは、研究結果として、いろんところで発表されているが、健康のことばかり考えてやれば苦になる。楽しみながらやれば、長い距離でも歩くことも可能。また、継続できる。

ウ) ウォーキングと地域活性化

- ・ウォーキングの参加人口は、全国で3000～4000万人である。地方イベントでも最低1500人の参加者が集まる。いかにPRしていくのがポイント。第1回目となれば、ますます参加者が集まる。毎月、協会からイベントのパンフを会員宛に送っており、10万人の増員能力を持っている。遠方からの人も多く、鉄道利用、食事に宿泊、お土産などで、地域にお金を落としてくれる。

エ) コース設定について

- ・一般的に、5、10、30、40kmの4コースを設定することが多い。5、10kmコースは市民参加向け、30、40kmは全国から集まるウォーカー向けを想定する。(日頃やっている方は、闘争心が働き、人より多く歩きたいという気持ちになるらしい。)
- ・山形県内でウォーキング指導員は15名？いる。歩き方を覚えると10kmコースも十分歩けるようになる。地区毎にコースを設定するのもよし。できれば、荷物などの関係でスタートとゴールが一緒の方がよい。
- ・基本的にはツデーウォーキング(1泊)が多いが、最近は、スリーデーウォーキング(2泊)も多くなってきた。
- ・まずは、大会テーマから検討して、決定後、コースづくりをする。コースありきではない。論点を絞ることが重要。楽しいコースプランが基本。参加者は、ワクワク感な

どを期待している。リピーターにもつながるので、その辺を心がけて、コース設定する。

- ・情報収集は、十分するのが望ましいが、あくまで参考とする。
- ・人数によっては、集合場所の設定が難しい。基本は駅がよいが、大規模の大会の場合は、不十分である。大人数の集まれる場所を確保するか、コース距離により、参加時間を調整して、混乱をさける方法もある。
- ・コースは、地図上に情報をかき込み、下見を実施。安全性、車の出入り、休憩場所などを考慮し、何度もコースの設定条件を整理していく。絞り込みも、テーマに沿っているか要確認。
- ・安全性（危険個所がないこと、案内板などの設置、道路状況）、休憩場所（特にトイレの設置、10kmに1箇所は必要）、昼食場所の雨天対策などの検討が必要。

## オ) 大会の開催について

- ・単回ではダメ。毎年できるようなシナリオを考える。
- ・コースリーダーの育成。コース設定の仕方がわかってくる。
- ・まずは、コース設定してみて、協会の支援を受けて、何回かやってみる。長井だけでやるのか、最上川沿川に広げるのか、酒田までなら、1週間ぐらいで行ける。
- ・大会時の利用施設（駅、集合場所、休憩場所、トイレなど）が、参加者数に見合っているか。
- ・（緊急）連絡体制の整備。スタッフ同士の連絡。自治体との連絡。救急、警察との連絡体制をきちんとしておく必要あり。
- ・最近の子供は歩かなくなったので、「歩育」と称して、小学校などの学校行事として参加呼びかけしている。学校とのタイアップも重要。熊本の八代で盛んに行われている。
- ・全員の完歩を目指すために、会話や景色を見て楽しくなるように心がける。途中で帰る人がいるということは、リピーターにはつながらない。歩行中の禁煙、ゴミの持ち帰りなど、参加者同士のマナーと環境への配慮する。参加者へのフォロー情報収集、反省会などにより、次回へのステップアップも検討する。

## カ) キャッチコピーの大切さ「大会コース・テーマ」

- ・キャッチコピーは重要。どこにでも該当するようなものでは面白みはない。特徴のある、引き付けるものを考える。クリーン（環境）ウォークは最近多い。参加することで社会貢献していると感じる。トレイル、モンブランなど山を使うことも、今では話題性としてよい。

## キ) ウォーキングの健康増進

- ・ウォーキングの効果は、ストレス解消、便秘解消や肩こりなどの短期効果、血圧や体

重など長期効果も期待される。

- ・貯筋力は、30・40代から70代で15%、80代で40%低下すると言われる。身体運動能力（図表4）も独立レベル以下（リハビリテーション）にならないように、体力維持に努める必要がある。

## ク) 質疑応答

### ○「第1回 九州一周浪漫ウォーク」について

→参加者全体で3600名、本部隊30名、スタート時点で人数が多くて大変だった。普段バスが併走しており、疲れた方などは、自由に乗降できるので、参加しやすい。78才の東京の女性が参加しており、初めは不安で見ていたが、2週間もすれば、精神的にも強くなり、シャキシャキと歩いており、1周完歩した。歩きながら、温泉巡りや歴史遺産を見ることもでき、十分楽しむことができる。夜は焼酎も楽しめる。歴史を紹介してくれる人もおり、その場所場所で解説も聞くことができる。団体ウォーキングなので、止まって話を聞くことも可能。フリーウォーキングではこのような企画は難しい。

### ○「イヤーラウンドウォークコース」の登録について

→年間通して、フリーで歩けるコースで、最低10kmを設定する必要がある。どちらかというと、地域の方々向けのコース。協会のHPにて、コースの登録可能。中間とゴール地点で、参加記録証にスタンプを押印してもらう。押印は100～200円程度。新しいコースが登録されると、会員の方に紹介される。500選は、国交省の単年事業だったため、今後選定はされることはない。

### ○コースの設定、安全性について

→コースの内容もあまり奇抜なものダメ。花をテーマとしているところも多い。日付設定は、金土日が多い。平日よりは家族に気兼ねなく外出できる。夫婦で参加する人は少ない。

→川の増水のために、フットパスの整備空間は危険な状況になる場合もあるが、その辺は、きちんと管理者が事前チェックをして、歩ける歩けないを見極め、案内する必要がある。日々の確認は管理者の義務。

→参加者の中には、スニーカーでない人もいるが、必ずしも否定できない。草履で参加して完歩する方もいる。これは参加者の自己責任であろう。ある大会では、スポンサーの「Moon Star」が靴を無料配布している。宣伝効果抜群！

### ○コースの設定時の、役所や警察との調整について、参加者募集の仕方について

→大分県の事例であるが、県職員の中に協会会員がいたこともあり、県全体でのイベント立ち上げに繋がった。健康状態の維持による医療費削減をねらいとしたため、県を動かしやすかった。全市町村にコースを設定して、毎日利用できるようにしている。職員に会員がいることは、イベントを進めるにあたり、大きな効果だったと思う。

## ○協会加入費用について

→個人と団体会員登録あり。登録料はHP参照。

## ○最上川流域全体でコース設定した場合の魅力について

→最上川流域全体コースでも10日間程度。実際、白鷹まで行ったが、その先にも行きたいと感じた。ウォーカーはなるべく長い距離を歩きたくなるので、IVVの認定コースとなれば、更に人が集まりやすくなると思う。

## ■講義2：「まぼろしの左荒線沿線街道ツアー」を終えて

### 講師 菅野志郎氏（しらたか旅先案内人）

- ・今回のツアーは、3町合同ということで、それぞれのガイドが、他の町の案内もする必要があった。実際、どこまで出来るのか疑問だった。参加者も年代が様々であったので、自分も持っている知識を最大限に生かしてガイドすることになった。ツアーを振り返ると、10時頃に左沢駅出発して、14:30頃に荒砥駅解散で、内容は盛りだくさんなのに時間が足りなかった。
- ・山形県の土木遺産として、日本最古の鉄橋、最上川橋梁（荒砥鉄橋）と旧最上川橋が認定されており、鉄橋2兄弟と呼ばれる。3兄弟では、大垣にある鉄橋（現在はレールが取り外され、橋として利用）が含まれる。
- ・最上川橋梁の200m付近で、昔、飛脚が落ちて、80両のお金が落ちたといわれている。古文書も残っており、今のなお、川底には存在するかもしれない。今年、テレビ局の企画で小判を探せ！というイベントも行った。
- ・自分は、元タクシードライバーなので、足には自信がない。一緒に歩いてガイドすることは難しい。ポイントでの案内になるだろう。
- ・酒田までのフットパスロードができることを期待する。

### 講師 宮本建一氏（朝日町エコミュージアム案内人の会）

- ・土木遺産の旧明鏡橋、明治8年に、最上川の本流に初めて架かった橋である。しかし、5年で崩壊した。〇〇公園からの眺めは最高である。新しく明鏡橋が出来たが、文化、美学的な意味から、取り壊しを逃れることとなる。
- ・朝日町でも、最上川の河床の岩盤を削って、水路を開削が行われていた。
- ・明治22年から、りんご栽培は始まる。朝晩の寒暖差が、県内でも有数もりんご産地となったのではないかと思う。
- ・平成11年に、農水省の棚田100選に選ばれた、「榎平の棚田」がある。近くにはヒメサユリの群生地の展望台があり、榎平の棚田を一望できる。
- ・昭和44年に国重文に指定された、商家の佐竹家がある。
- ・昭和39年に架かった吊り橋（金平～大瀬）、長さ72m、巾2m、おしんの撮影地とも

なった。

#### 講師 石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会）

- ・最上川沿いの走る県道9号線、今は、国道が走り裏通りとなったが、今後、再び表通りとして、スポットを浴びさせることができないか。現状では、河川敷に木々が生い茂り、最上川を見れる場所が少ない。
- ・白鷹町荒砥から朝日町を通り、大江町左沢に至るまでの約30kmの区間を「五百川峡谷」という。ちょうどその区間が「まぼろしの左荒線」とも言われる。その区間はいろいろな名所もあり、物語を語りながら歩くには、面白い区間である。次回の3町企画のレトロバスの旅のコースとして、検討していきたいと思う。
- ・最上川（もがみがわ）は、読み方を変えると、最上（さいじょう）の川とも読める。この周辺には、日本一のものも多数ある。難しい地名（左沢（あてらざわ）、右沢（かてらざわ）など）も多い。その辺の資源をうまく活用しつつ、フットパスと町並みコースと併せて検討して行きたい。

#### □ 質疑応答

##### ○「まぼろしの左荒線沿線街道ツアー」について

- ・今回、参加費3000円ということだが、盛りだくさんの内容で採算は取れるのかどうか。→日帰り企画での上限は5000円ぐらい。このイベントに参加するために仙台から来訪された方もいらっしゃるので、交通費を考慮すると、3000円が妥当な金額。通常はこの金額では無理であるが、行政が入っていることもあり、なんとかやれた状況である。ツアー料金だけで完結せず、地元にお金が落ちることも想定して考える必要もある。
- ・今回のイベントのアンケート結果を見ても、良かったという意見がとても多かった。

##### ○イベント時のトイレの問題について

- ・3年前に最上川の上流から下流まで10日間かけて、歩くイベントを行った。実際、参加者を見てみると、女性はいない。その理由はトイレの問題があった。あゆ茶屋～上郷ダム間では全くない。
- ・月第4土曜日に、県内でウォーキング企画している。前回は、白鷹コースを25名で実施した。移動はできるだけ電車を利用（村山～南陽乗換～長井）している。ウォーキング中には、ゴミを拾いながら10～15km。事前に調査して、トイレの利用を公民館に問合せすると、1回2000円と言われた。有料施設というのは、なかなか難しい。
- ・埼玉県の秩父には、公衆トイレが多い。掃除はシルバー人材センターが実施している。
- ・大江町の神通峡にも水洗トイレを設置しているが、水源の水を使用しているため、落ち葉などで詰まり、水が流れにくくなり、汚れやすくなっているという現状がある。

- ・トラックを併走して、移動式トイレの検討してもいいのではないかな。

### ■講義3：「ローカル鉄道は素晴らしい観光資源」

講師 野村浩志氏（山形鉄道株式会社社長）

#### □ 自己紹介、社長になった理由

- ・以前は、読売旅行の社員。大宮～新潟～2001年に山形へと転勤してきた。小さい頃から鉄道の絵を描き続けている。函館朝市で知り合った人の紹介で、函館市内の路面電車内で絵画展を開催。以降、全国で絵画展を実施している。
- ・休日には、改造した車で、「移動美術館」を始める。客寄せのために、駄菓子も並べたり、子供達に売り子になってもらい、いろんなイベント会場に出かけていた。そのうちに「移動美術館」を「移動駄菓子屋美術館ちび電号」にバージョンアップさせ、その記念すべき第1回目の開設場所が、長井駅だった。その時が、「フラワー長井線」との出会いだった。
- ・フラワー長井線を応援すべく、読売旅行でイベント企画。あえて、ローカルな部分を前面に出す、赤字経営で困っていることも大々的に表示して願う。社員の顔写真を出す。それが売り上げ倍増に繋がる、野村式チラシである。その他、卓上カレンダーなど、山形鉄道グッズなどの企画も実施する。
- ・2008年12月、「フラワー長井線の社長公募」を知り、応募、合格、社長就任に至る。

#### □ オンリーワンのつくり方

- ・日本一というのは、多くの人知っている。日本で一番高い山は富士山だが、二番目はというとわかる人は少ない。日本一の遊園地はTDLだが、二番目は？。意外に二番目は知れないのだ。だから、一番、二番目を狙うよりも、オンリーワンを目指した方が効果的ではないか。
- ・熊本の黒川温泉も、昔は古びた温泉街。これを観光カリスマが、温泉街全体を「大きな旅館」と見立てて、温泉組合全体で活動してきた。1人勝ちの道を選ばずに、やってきたことが、今の有名温泉に導いているのである。

#### □ 自分を売る前に他人を売り込む

- ・フラワー長井線をすぐに売り込んでも無理。まずは山形県を、次に置賜を、次に長井をPRしていく。

#### □ 乗っていただけないなら、話に乗っていただく！（山形鉄道グッズ開発例）

- ・フラワー長井線「黒字鉛筆」、黒と赤の芯となっている。赤をたくさん削って、赤字をなくそう！！と洒落まじりで作る。川西町には、三菱鉛筆の工場もあり、話をもちかけた。

#### □ 鉄道がなくなると街もさびれる

- ・以前、高校への「出前授業」で、時刻表の地図のフラワー長井線を消して、持ってい

った。廃止されれば、街の名前が消滅していく。普段鉄道に乗らない人にも悪影響を及ぼし、公共交通の全廃につながる。そうすれば、街とは呼べなくなる。存続の重要性をわかってもらいたい。

- ・フラワー長井線周辺については、日中の利用者が少ない時間帯には、観光路線化して、遊び感覚のテーマパーク化を図りたい。その目的は、その収益で、市民の足を守り、鉄道存続のためである。
- ・山形名物の玉コン、玉コン1つでもおいしいが、4つ串にさされば、100円で売れる。その串の役割をフラワー長井線が担えるといいと感じている。

## ■意見交換

野村氏（講師）：・好きなことを仕事にしている人は幸せだよね～と言われるが、やはり仕事は仕事である。自分のやっていることが、地域貢献になるのであれば、うれしいし大事だと思う。自分にハンデあるからこそ、バネになることもたくさんある。

菅野氏（講師）：・自分のやりたいことを、役所に伝えることがある。白鷹には、伝統工芸村があり、深山和紙をつくっている。しかし、材料となるコウゾは、四国高松から買っているのが現状である。何故、地域で作らないのか、疑問に残る。

・限界集落となりつつある大瀬地区があるが、昔、米沢藩主の番所があった。そこにあった木が倒れてしまったので、通行手形をつくって、ツアーで配ったら、大変喜ばれた。

・最上川沿岸の木々を切ることで、景観が変わってくると思う。

宮本氏（講師）：・以前、最上川本流をイカダで下るイベントを10年ぐらいやっていた。しかし、今は、イカダ材料の木電柱が手に入らず、できなくなった。カヌーで下ることはあるが、やはり流れから兩岸を見るには、いい眺めである。

石川氏（講師）：・元々、役所勤めであり、そのため地域のことは仕事で知る機会が多かった。この知識をいかに皆さんに伝えるか、思考錯誤している。ボランティアガイドとしては、まず町を知ろう、町を語ろう、町を好きになろうと思っている。

最上川リバーツーリズム協会A氏：・現在、遺産の見えるポイントを補助金を活用して、整備している。エコウォークの方々に案内し、歩いてもらっている。ウォーキングしていると、昔から住んでいても知らないことが多いので、多くの人に歩いて、色々なことを知ってほしい。最上川上流から下流まで歩いてみたい。

長井市観光協会B氏：・市の観光協会としては、資源を他のところに取られちゃいけないと思い、他の市町村と協力して、イベントを実施するという試みは一切なかった。しかし、今回の3町の取り組みを見て、点だけイベントではなく、線でつなぐのも重要であると感じた。

・フットパスも5km(町中だけのコース)では短い。また、川沿いにあるにもかかわらず、川が見えないとの、実際利用している人からも話を聞く。

・今回、左荒線をバスでつなぐという、いいアイデアをもらった。

安藤氏(講師)：ウォーカーの中には、山メインの方もいるので、平坦な場所ばかり設定しなければならないという発想はらない。

C氏：・野川まなび館は、意外に長井市民も知らない人が多い。来年の長井ダムの完成を機会に、イベントなどに取り込んでみてはどうか。今泉からのフットパス整備はきちんとされている。草や木は全て綺麗に刈らなくても、ビューポイントになる部分だけしてもらえば十分である。

・自分は、ウォーキングする時には、事前にトイレの位置を必ずチェックしていく。

石川氏(講師)：・川沿いにはゴミが多い。ガイドとしてもてなす場合には、イメージが悪くなるので、事前にゴミを拾うようにしている。いかにゴミを少なくするか、最上川流域住民の義務であり、責任である。

D氏：・やなに剪定の木々が流れてくると、除外しにくくなる。川に捨てたわけではなく、河川沿いに剪定木を置いておくため、雪どけで、自然に流れてくるのである。その辺もちょっとした注意で十分防げる。

事務局：フラワー長井線の駅名が面白いのが多い。おりはた、白兔など。このような地名をキャッチフレーズに入れられると面白いのではないか。

C氏：・長井市とドイツは友好姉妹都市である。そこでドイツでよく見られる、電車に自転車を積むことができるとよい。通勤通学時間以外の日中に、そのような取り組みを是非やってほしい。以前、あったのが、利用者がいないとのことで、すぐ廃止された。少し継続してやってほしい。

長井市E氏：・今回、この研修会を実施して、各町で頑張ってやっている人を集まる機会を、今後もどんどんつくるべきと思った。

・「玉こんにやく」は需要。いままで「棒」になるところがなかったのではないか。今後に期待したいし、もし棒に長井市がなれば良いと感じた。

・今後、各町のフットパスを繋げる作業をやってみたい。

・12/13 10:30～ 白鷹町で舟道開削工法を実際再現してみるの、興味のある方は、是非、参加してほしい。

#### (4) 研修会の評価

- ・長井市内でアルクセッションの実施部隊である連絡会議の委員に研修会の評価アンケートをとった結果、下図のような意見が出された。この結果、概ね評価されたと言える。
- ・このような流域をまたいだ研修会や交流は、誰が主催するかが難しいこと、さらに、連携により何を売っていくか、目標を明確にしなければ難しいという意見が出された。

#### 研修会に対するアルクセッション連絡会議参加団体による評価

##### ①段取り

研修会の内容・目的ともに大変良いことであるが、今回に限り段取りは厳しかった。一つは、誰が中心に進めるのか？ということ。結果的に最上川リバーツーリズムネットワーク（＝最上川RTN）が中心に行った形にしたが、行政もそれぞれの町のNPOも、良い、やるべき取り組みとは考えているが、それぞれの活動範囲があるため、流域への取り組みができなかった。

##### ②参加者の呼びかけ方

口コミ

##### ③内容（プログラム）

ウォーキングという共通の話題であり、参考になった。また、各団体の取り組みが聞けたことは良いことであった。

##### ④講師の人選

山形鉄道とウォーキング協会は、歩く観光を行っているものにとっては、非常に参考になった。

##### ⑤今後の交流の可能性

ガイド同士の交流は、3町ではあったものの、枠を広げた交流は必要と思う。NPO活動交流は、最上川RTNの活動に期待するところが大きい。また、最上川フォーラムあたりが積極的に流域に呼びかける活動が欲しい。

##### ⑥当日の進行

最上川RTNが前面に出れたのでよかった。

##### ⑦今後の沿川の連携への可能性

今まで少朝日町とは、フットパスを一緒に取り組んできたので交流があったが、長井市と白鷹町の連携の可能性は出てきた。白鷹、朝日、大江は「幻の左荒線」で連携できた。桜では、南陽、長井、白鷹が連携している。カヌーなどを使ったものがあれば、また範囲が広がると思われる。

この様な連携パターンはできるが、外に対して何を売るのか、売れるのかを明確にしていかなければ、流域という観光は難しい。

## 5.4 平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修派遣

### (1) 派遣概要

- ・平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修へ2名、本業務により派遣した。
- ・研修概要は下記の通りである。

#### 平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修

##### 1.目的

水源地域は、健全な水循環系の構築及び良質な水の安定的な確保に重要な役割を果たしていますが、このような水源地域を活性化していくためには、水源地域が、自分たちの地域はまず自分達で創造し、地域に根ざした独自の価値観を形成していくとともに、受益地域である下流地域を含む流域が一体となってこれに取り組むことが重要であります。

本研修は、水源地域におけるこのような取り組みを促進していく観点から、水源地域の活性化に取り組む講師による各種の事例紹介、リーダーとしての意見集約手法を学ぶワークショップ等を通じ、水源地域を担う地域活性化リーダーの養成に資することを目的としています。

##### 2.対象

水源地域活性化に係る地方公共団体職員及びNPO等の職員を対象とします(10名程度、受講希望者多数の場合は人数を調整)。

##### 3.研修日程

平成21年9月16日(水)～9月18日(金) 2泊3日の合宿形式

##### 4.会場

北海道南富良野町金山 石狩川開発建設部 金山ダム管理支所

##### 5.実施主体

国土交通省土地・水資源局水資源部水源地域対策課

## 平成21年度水源地域活性化リーダー養成研修内容

### (1) 講義「リーダーとして必要な意見集約手法」

簡易KJ法の演習を経て、様々な意見を短時間にまとめ上げる手法を習得して頂きます。また、講師の経験を基に少数意見に対する対処法等を披露して頂きます。

(講師：NPO ひろしまね理事長 安藤周治氏)

### (2) 講義「水源地域におけるNPO活動について」

山形県鶴岡市の月山ダムを拠点にした水源地域におけるNPOを中心とした取組について、そこに至るまでの苦労や工夫等を披露して頂きます。また、これから地域興しのための取組を進めようとする者に必要な心構え等を指摘して頂きます。

(講師：NPO DO! tank 代表 岡部恵美子氏)

### (3) 講義(現地活動)「水源地域ビジョン活動の進め方(仮題)」

金山ダム水源地域ビジョン推進連絡会の取組概要や課題について、現地活動を通じた説明を受け、その手法を学びます。

・「ゼロの山」を活用した登山・自然観察ツアーの取組等

(講師：金山ダム水源地域ビジョン推進連絡会代表 小林茂雄氏)

### (4) 講義「流域一体化の取組のために」

地域活性化のための取組を進めて行くにあたって、現在の社会情勢を踏まえた上で、必要となる心構え、配慮等についての講義を行い、研修生が各自の地域へ戻って活動を展開していくために必要となる考え方等を習得して頂きます。

(講師：パシフィックコンサルタンツ(株) 山田泰司氏)

### (5) 事例発表(受講生による地域の課題と取組の報告)

各研修生に地域の課題や実際に取り組んでいる活動について、10分程度の事例発表をして頂きます。各地域での実情等について知識を深め、共有を図ることで全体討議での議論へとつなげます。このため、受講生は事例発表のための資料を事前に準備して頂きます。

(コメンテーター：安藤周治氏、岡部恵美子氏、小林茂雄氏、山田泰司氏)

### (6) 全体討議

研修生及び講師が、事例発表を踏まえフリーに議論をすることで研修生の知見を深めるとともに、各自の地域で抱える課題についても今後の対応を検討し、抱負を発表する。

コメンテーターから議論への助言を行うとともに、研修生の発表した各地域での取組事例・抱負を踏まえ、講評を行うことで今後の活動に対するアドバイスを行う。

(コメンテーター：安藤周治氏、岡部恵美子氏、小林茂雄氏、山田泰司氏)

(2) 参加レポートの提出

- ・研修派遣を受け、派遣した参加者から提出されたレポートを下記に示す。派遣により、他地域の活動に刺激を受け、最上川流域への活動へ反映させていきたいとの意向が示されている。長井市で行われるアルクセッション 09 やその後の東京都内の旅行会社への企画提案活動へつながり、派遣による成果があったと考えられる。

I 研修を受けての感想及び意見

所属(住所) 〒 9 9 3 - 8 6 0 1 山形県長井市ままの上5-1 長井市建設課内		記載:最上川リバーツーリズムネットワーク事務局
TEL 0238-84-2111(521)	FAX 0238-84-5969	E-mail: 229km@e.jan.ne.jp
講習科目 等	研修を受けての感想、意見及び要望等	
講義 リーダーとしての意見集約方法	ひろしまね安藤先生の講義を受けて、自分の知識の無知さに気づき！と同時に現実の言葉の数々に衝撃を受け、さらに発想の転換もでき、成長は時間ではなく出会いにあるのではないかと身をもって体感した次第です。例えば、現実の言葉として「高度経済成長期のニュータウンが高齢化しており、自殺者がいてもニュースにならないくらいふつうの事になっている」ということ「お寺やお宮を管理する地域の力がなく屋根に穴が開いている光景」「ひとつの集落12戸が全戸他出して石碑を残し」他出できない集落では「わしが死んだら誰が葬式出してくれるか心配で、なかなか死なれんのんよ」と言ってる人がいる。改めえ自分たちの役割の大きさを感じました。また私に何ができるのだろう。と思ったが、すぐに安藤先生がしている活動を聞き「Z I Z I B A B A事業」「地産地水」と前向きになれる話が聞け、班に分かれ K J 法で話合う内に、『シルバーパワー』という希望の光を見つけることが出来ました。一人では見つけ出すことはできなかつたかもしれません。思いがあっても整理できなかつたかもしれません。K J 法は単純な作業の繰り返しなのに答えがでてきてびっくりしました。これから活用していきたいと思います。	
講義 水源地域におけるNPO活動	DO! t a n k 岡部先生の講義を受けて、講義の前に「線・☆・家・実のなる木・月を書いて」ひとつの情報でも人によって伝わり方は違う！！ということがわかりやすく理解でき、また「スト	

	<p>ップというまで心で数を数え」一人一人ペースは違う！！ということがほんとにわかりやすく理解でき、さらにリラックスでき、さすが講師と肝を抜かれました。信田さんの90以上の数にはびっくりしましたが・・・(どんだけ早い体内時計だぁ～) 雰囲気と和ませる為の“アイスブレイク”人前で話す機会きたら絶対やりたいと思いました。また衝撃を受けた話のひとつに「わがまちの防災マップ」非難訓練をかねて、町の人に町中を歩いてもらい自分たちの目で危険な場所・被災したら使えるだろう物や場所を発見し、デジカメで撮り貼り出す。また町の消防・交番と連携してコミュニケーションを図り、こんなによばらしい防災マップは他にはないと衝撃でした。他の人が作った防災マップでは自分の目や足で確認したわけではなく、いざというとき役に立たないであろうことがこの事例を聞き、実感しました。また消防や交番の人と連携することで普段一般の人は関わるのが余りない人たちの顔を知ることができる。これは全国ですべき活動だと思いました。NPOの活動については、決まった人だけをあてにするのではなく、小学校や企業と協力しあえるしくみを作ること、また実際に企業に出向きニーズが合えばラッキーという前向きな思いに感銘を受け、早速実行しています。ツリーイングについても岡部先生自身がインストラクターの資格を取り自らが見本となる姿勢は見習いたいと思いました。</p>
<p>講義 流域一体化の取組のために</p>	<p>パシフィックコンサルタンツ(株)山田先生の講義を受けて、「バーチャルウォーター」目線を変えると水は見えないところでとても使われていることにびっくりしました。目に見えるものしか見えていませんでした。改めて水の大切さダム的重要性を確認できました。海外に依存している日本の食糧生産のグラフをみて恐怖を覚えました。今後どう活動していくか山田先生はしっかり宿題を与えてくれました。例えば、積極層・関心層で仲間を作り、どう一般層・無関心層へ伝えていくか？ヒントも沢山頂きました。イベントを出前にすると、参加者を集める必要がないということ、小学校や老人ホームに出張するなど、また、上流・中流・下流を常に意識して、例えば山から海へエコ活動しに行く、若い力(高校生・大学生)を巻き込んでいくなどです。もっとも私が興味深かったのは、最後に見たツイです。事業・イベントする前からマスコミを巻き込むプレスリリースの方法！！いい企画がで</p>

	きたら実行したいと思いました。
<p>現地研修 占冠村・南富良野町 の概要 水源地域ビジョン活 動の進め方</p>	<p>小林さんや平塚さんの話を聞いて、ネーミングはとても大事だと思いました。カナダムやダムダム団など親しみのもてる言葉にすると近寄りやすいことがわかりました。また「楽しくなければビジョンじゃない」「自分が楽しくなければ意味がない」など沢山の名言を頂きました。早速ネーミングについては、山形に帰りいろいろな場面で、提言しています。また、そうだねと感銘を受けてくれる方も沢山います。また名前のなかった山に名前をつけて登山ルートを作った活動はすばらしく山も喜んでいるでしょう。私も最上川に喜んでもらえるよう改めて頑張りたいと思いました。</p>
<p>事例発表</p>	<p>☆〇〇さんの発表を聞いて、「天岩戸作戦」太陽の神様アマテラスにでてきてもらうため、岩戸の前でどんちゃん騒ぎをして、ちょっと覗いたところをがばっと開けた！！まさに一般層を巻き込む一番の作戦です。楽しく騒いでいるとみんな寄ってくる。私たちもどんどん楽しく騒いでみようと思います。</p> <p>☆〇〇さんの発表を聞いて、人口26人・平均年齢63歳・人より牛や鹿の方が多い・携帯が県外すべてのことにびっくりです。ただ毎年4000人前後の登山者がくるということでバリアフリーのくまさん荘は今もこれからも豊穠になくってはならないものになるでしょう。</p> <p>☆ 〇〇さんの発表を聞いて、成功事例を聞いているような感じでした。地域資源の輪がきちんとできていて利益もでていく。まさに過疎化の進む町や村に進めたい活動です。参考にしたいと思います。</p> <p>☆ 〇〇さんの発表を聞いて、県境ということで、3つのダムをどう活用していくか、問題も多々あるように感じましたが、一般の人が楽しく足を運べるようなダムの枠を超えた革命を起して頂きたいと思います。</p> <p>☆ 〇〇さんの発表を聞いて、事務局が近くなのでいろいろな活動や体制を知っていますが、うらやまし環境であります。一緒に最上川の普及啓発活動頑張りましょう。</p> <p>☆ 〇〇さんの発表を聞いて、筑後川は熊本・大分・福岡・佐賀と4県にまたがる川とはすごい！その上流のダムといこと</p>

	<p>は福岡近辺の水の管理人ですね。パッションの意味は情熱です。その情熱で大山ダム水源地域ビジョン頑張ってください。</p> <p>☆ ○○さんの発表を聞いて、ダムは普通山の奥ですが、一庫ダムは大阪・兵庫のベッタタウンにあり、里山100選に選ばれた黒川地区もあり、住民を巻き込むには他のダムより恵まれた環境にあるように思いました。信田さんの若さとバイタリティがあれば、どんどん地域が活性化していきそうで楽しみです。</p>
全体討議Ⅰ・Ⅱ	<p>○○さんが涙した場面もありましたが、ひとりひとりの感想や思いを聞き、ほんとに、感動・感動の3泊4日でした。私は研修に行くまで、落ち込んでいました。</p> <p>しかし、研修で同じ志しを持つ人たちからいろいろな言葉をいただき、もやもやしていた気持ちが吹っ飛びました。「出る杭は打たれるが、出すぎた杭は打たれない」「したたかに・しなやかに・さりげなく」「自分が悪者に徹する」など、またひとりぼっちと思っていたのに、研修から帰ってきて、ひとりぼっちだと思わなくなりました。離れていても、研修生の存在が確実に私を支えてくれています。</p>
研修全般について (カリキュラム、進め方、会場等)	<p>研修場所金山ダムの環境は、大変よかったです。空気も澄んでいて景色も最高。また近くの物産館に連れて行ってもらったので、お土産も沢山買うことができ、バスの運転士さんの配慮で「ぼっぼや」の撮影場所にも連れて行って嬉しかったです。</p> <p>夕食はコース料理でおかたく、それでなくても初対面の人たちの集まりなので、もう少しゆるい感じがよかったです。</p> <p>ただ2次会はログハウスで気さくにできたので、いろんな人と沢山話せる機会があってよかったと思います。研修の進め方については、私にとってはいいペースできちんと吸収できました。</p>

## Ⅱ 今後の抱負等

まず、自分にできることからやっていきます。今年度中に、最上川のかわら版を発行し、最上川流域に配布し、今以上に山形県民に最上川に関心を持ってもらえるよう努めます。ゆくゆくは、かわら版のスポンサーを見つけ、活動資金とし、取材を重ね、最上川解説本みたいなものを出せたらいいなあと思います。

もしくは、スポンサー（公告主）を増やし、最上川フリーペーパーを毎月発行できるような方向も考えております。今は1次元ですが、これを形にし、2次元にし、三次元になるよう進みます。

## 5.5 都内旅行会社への企画提案出張支援

### (1) 概要

- ・アルクセッションの実施を受け、流域での展開や集客の方策について、最上川リバーツーリズムネットワークから、都内の旅行会社へ企画提案及びヒアリング調査を実施したいとの意向を受け、本業務から「人材育成」として出張費用を捻出した。

#### 【出張概要】

①出張期間 平成 22 年 2 月 22 日から平成 22 年 2 月 23 日

②出張先及び面談者

2月22日(月)	JTB 東日本国内商品事業部 仕入企画担当課 国土交通省 土地・水資源局
2月23日(火)	大田区観光協会 JTB メディアマーケティング 国内企画第一課

③出張目的

ツアー企画書のPR及び企画書についてのヒアリング調査の為



都内旅行会社での打合せ状況

(2) 出張報告書の提出

- ・出張支援を受け、NPO 法人最上川リバーツーリズムネットワークから提出された報告書  
を下記に示す。

株式会社地域開発研究所御中

## 出張報告書

提出日：平成 22 年 3 月 1 日

提出者：NPO 法人 最上川リバーツーリズムネットワーク

以下のとおり出張の報告を致します。

1. 出張期間 平成 22 年 2 月 22 日から平成 22 年 2 月 23 日

2. 出張先

	午前	午後
2 月 22 日(月)	14 時 JTB	15 時 国土交通省
2 月 23 日(火)	10 時 大田区観光協会	15 時 JTB メディアリテリング

3. 面談者

2 月 22 日(月)	JTB 東日本国内商品事業部 仕入企画担当課
	国土交通省 土地・水資源局
2 月 23 日(火)	大田区観光協会
	JTB メディアリテリング 国内企画第一課

4. 出張目的

ツアー企画書の PR 及び企画書についてのヒアリング調査の為

## 5. 出張の成果

### (1) JTB 東日本国内商品事業部 仕入企画担当課 [22 日午前訪問先]

ツアーを商品化するためには様々な制約がある、JTB側は旅館を売るのが目的でどう利益を取るかが大切。地域着地型ツアーの東北6県のチームができたばかりである。

コンプライアンスは安全面に厳しく、地元のNPOなどと契約を結んでいるケースが多い。頑張っているNPO法人は岩手県の田野畑。商品にするには緑ナンバーのバスしか使えない。最近は添乗員の付かないパーソナルが中心である。など

### (2) 国土交通省 土地・水資源局 [22 日午後訪問先]

水の里エントリーシート提出。

北海道研修などでお世話になった方々と久しぶりに顔を合わせエールを頂いた。

### (3) 大田区観光協会 [23 日午前訪問先]

新橋に地域交流センターがあり、中村さんという方が中心となり、全国川下りや、川の駅の活動をしている。モニターツアーをする際連携すればよいかも・・・。

羽田ビーチクラブの桜井さんは長井市の東京事務局を手伝っていた。

美しい多摩川フォーラムは山形の美しい山形最上川フォーラムをモデルにしているので、交流するのも面白そうだ。

長野の小学生が親子でカヌーを手作りして川下りをしているので、山形でも工科大学の学生と協力してできそうだ。など

### (4) JTB メディアマーケティング 国内企画第一課 [23 日午後訪問先]

基本参加者が30名は集まらないと駄目。客層は高齢者の方が多い。認知度の高い場所や超有名所がツアーに入っていないと厳しい。何か付加価値をつけないと駄目。

宿泊の平均価格は1泊2泊付きで6000円～6500円。山形ではホテル蔵王を利用している。新幹線込みで25000円～30000円切らないと厳しい。お客様は安いことが当たり前になっている。山形だとお釜や山寺を年間通して商品化している。長井市だとフラワー長井線と契約しているが、年間通してイベントをしてくれるのでうれしい。高齢の女性の方々に花はうけがいい(あやめ・つつじ・バラ・ゆり・ダリヤなど)。

## 6. 出張成果の活用 (今後長井に観光客を増やすための戦略)

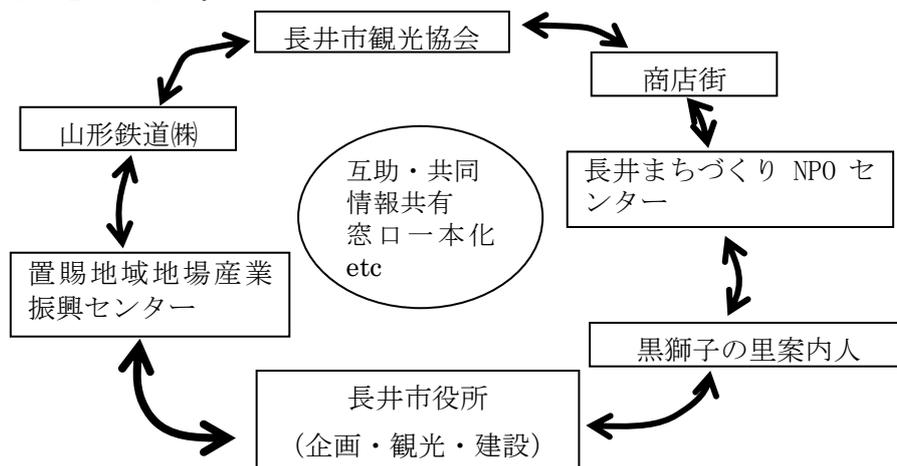
近く、長井観光事業者関係者を集め合同会議を行なう。その場をかりて出張報告をし、関係者と共に具体的に動いていく予定です。

## 6. 継続的かつ流域での展開に向けて

### 6.1 2009年度の成果

#### (1) 歩く観光の体制・仕組みづくり

- まずは関連する団体が一つのテーブルにつき、情報や思いを交換する。
  - ・今年度初めて、市内の関係機関等でアルクセッションの取り組みを確認する集まり（連絡調整会議）をはじめた。市内では以前から、連携してイベント等を実施していくことの必要性を感じていたが、取り組むきっかけがなかったという。
  - ・本年度実施したアルクセッションにおいて、市内の多様な団体との横のつながりを作ることができた。また、定期的に会議を開催することで、情報の交換を行い、一緒に事業を進めることができた。



- 各団体の連携と役割分担により歩く観光の仕組みをつくった。
  - ・事業全体の窓口を長井市観光協会とした。企画・調整、広報は参加団体が担った。
  - ・アルクセッションは、長井市観光協会主催、NPO 最上川リバーツーリズムネットワーク主催、NPO 長井まちづくり NPO センター主催と各々の団体が主に企画案を出し、主催した。
  - ・事業全体の調整や取りまとめは、長井市企画調整課で行った。
  - ・今後、観光協会またはNPOで全て対応していくことが次年度以降の課題である。

【窓口】	長井市観光協会
【企画・調整、広報】	長井市観光協会、山形鉄道(株)、長井まちづくり NPO センター、市役所、置賜地域地場産業振興センター、同東京事務所
【ガイド協力】	黒獅子の里案内人（観光ガイド団体）
【協力】	長井市内の商店街

- ・実施後の総括では、各々の団体がそれぞれの立場で全体を把握しながらイベントを実施していくこと、新たな観光商品の開発の可能性が感じられたという意見が出されている。

## (2) 10月にイベントを集中的に実施

- ・10月に長井市内にて7回のイベントを集中的に実施することで、市内の賑わいの演出、アルクセッションのツアー中に他のイベントを組み合わせることが実現することができた。
- ・特に、3回目(10月31日開催)のアルクセッションでは、昼休みに横丁アートセッション09を組み入れ、昼食とともにフリータイムとして自由に他のイベントを楽しむことができた。

## (3) 広報活動の連携

- ・市内の多様な団体が一同に会し連絡調整を図り、10月に集中的にイベントを実施することにより、宣伝・広報においても、各団体のもつ広報費を合算することでこれまでよりも大きな広報活動を展開できた。具体的には、山形県南部地域に新聞折り込み広告を10万部配布することができた。
- ・また、それぞれの持つネットワークを利用してダイレクトメールによる広報活動も行っている。

## (4) 地域内の協力

- ・今回はツアー途中での商店や酒造所・味噌製造会社等の立ち寄りにより地域の協力を得た。協力により、「つまみ食いツアー」、「お菓子屋さんめぐり」、「店先プレゼント&商店街クイズ」等を実施した。
- ・「つまみ食いツアー」では、酒や味噌の製造元で試食品をだしていただきながら、製造者から直接話を聞く機会を設けた。通常は直接的に触れあう機会のなく、また、製造者の思いを聞くことにより、商品の買い上げにつながった。



味噌製造会社にて、きゅうりに数種類のもろみをつけて食べ比べながら試食した

- ・「お菓子屋さんめぐり」では、自由時間を設けて、参加者にはきんちやく袋とお菓子屋さんの地図を渡した。きんちやくを持参すればツアーの参加者だとお店の人がわかり、5%割引になるようにした。参加者に評価が高かった点は、①ゆっくりと地域をめぐる時間がとれたこと、②お店の人との会話を楽しめた点がある。また、店側からもお客さんとの会話が良かったと評価を得た。
- ・「店先プレゼント&商店街クイズ」では、試供品等のプレゼントをツアー途中の店先で配布していただいた。同時にお店を観察したり、店員に尋ねないと回答できないクイズを行った。
- ・一部のお店では庭や蔵の中を見せて頂いた。
- ・様々なしかけでお店の人と観光客が話す機会を設けることにより、参加者やお店の方それぞれから楽しい、いい企画だったとの評価につながった。

#### (5) 自立性・継続性の目途

- ・一回あたりの参加者数は20名を想定していた。運営の収支で言えば、20名程度が集客できれば、ガイド料、保険費用、諸経費等をまかなえる目途がついた。
- ・ただし、この収支には広報費用については含まれていない。アルクセッション09では、広報費用は、本業務の負担により行っている。また、ダイレクトメールの郵送費も各々の団体の費用から捻出している。今後は広報の手法と費用捻出が課題となる。

#### (6) 水源地域を担う人材育成

- ・アルクセッション連絡会議を通じて、「歩く観光」による集客や観光まちづくりの視点を認識でき、その結果、役割分担を認識し、役割に応じて今回のアルクセッションを実施できたと考える。実施体制については、大凡の目途はついたとの総括となっている。
- ・安全対策については、AEDの場所を調べるなど、会議や資料提供により、参加団体への意識づけができたと考えられる。今後、さらなる安全対策の確立や、赤十字救急法救急員の資格取得等につながることを期待する。
- ・アルクセッション連絡会議や研修会の実施、水源地域活性化リーダー養成研修への派遣を通じて、他地域の活動に刺激を受け、最上川流域への活動へ反映させていきたいとの意向が示された。このことが、東京都内の旅行会社への企画提案活動や「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2010への応募へと繋がっていったと言える。なお、都内旅行会社等への企画提案、「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2010」企画提案においても、一部不十分な面が見られたため、弊社により助言を行い、フォローを行った。

#### (7) 流域連携の可能性

- ・「置賜さくら回廊」による誘客では、南陽市・長井市・白鷹町が連携して取り組んできた。

- ・2009年に実施された「まぼろしの左荒線街道ツアー」では、白鷹町・朝日町・大江町が連携して取り組んだ。
- ・長井市と朝日町はフットパス事業を共に取り組んできた経緯から交流がある。
- ・以上の流域での連携の実績や、今回のアルクセッションによる実績から、長井市・朝日町・白鷹町の交流の可能性が出てきた。ただし、連携により何を売り出していくのかを明確にする必要がある。

#### (8) その他

- ・手書き風の散策マップを作成・配布し、好評であった。その時のツアーの地域に対応した地図の範囲設定や主要な施設の記入、フリータイムに訪れることができるお菓子屋等の情報を絞った掲載が役に立ったと言える。

## 6.2 今後の課題

- ・アルクセッション 09 の実施により一定の成果を上げることができたが、今後に向けての課題についても明らかになった。以下、その課題を列記する。

### (1) ツアーの安全対策及び集団歩行のノウハウ

- ・事前準備として、コースを下見し、コースタイムやトイレの場所の確認、協力店舗への依頼を実施した。また、保険の加入を行った。
- ・AED については、市内に設置箇所が少なく、さらに、土日は閉館のところがあり、役に立たないことがわかった。よって移動に際して持ち歩くか、施設に土日に対応可能な状況にしてもらうなどの対策が必要である。
- ・また、ガイドの話聞くには、ある程度人が滞留できる場所が必要である。安全確保の面から見てもガイドする場所を決めておく必要がある。
- ・ガイド以外にスタッフが同行しているが、先頭と最後尾の間隔が離れすぎた場合の対策など集団歩行のノウハウが確立していない。安全対策にも通じることであるため、次年度以降は集団歩行に対するノウハウの蓄積と、同行スタッフの体制づくりが重要である。

### (2) いわゆる着地型観光の集客能力、及び東京・仙台圏からの集客

- ・アルクセッションの企画運営等は NPO や観光協会等が担っているが、年数回の開催が限度である。現行程度以上では、観光ガイドや NPO が疲弊し、継続に支障が出る恐れがある。
- ・「歩く観光」では 1 回あたりの集客は 20 名が限度であり、収益性も限度がある。また、旅行会社へのヒアリング調査においても、全国展開するような観光商品としての成立は難しいとの意見が出されている。
- ・「歩く観光」形態の受け入れ体制について、どこまでを目標としていくのか、戦略を明確化していく必要がある。さらに、受け入れ体制を考慮した上で、東京圏や仙台圏からの集客方法について検討していく必要がある。

### (3) 全体を取りまとめるコーディネーターの設定

- ・アルクセッション 09 では、多様な団体が参加し、10 月に集中的にイベントを行うことで地域の賑わいや活性化に資することができた。この点は逆に、全ての団体が 10 月のイベントに向けて、同程度に忙しくなることとなる。各々の団体には通常の業務もある中でイベントの実施であるため、連絡調整がうまく機能しない場面もあったという。
- ・この点から、準備に忙殺されない独立した全体を取りまとめるコーディネーターが必要という意見があがっている。
- ・今回はコーディネーター役を市役所側で担っている。今後は自立化に向けて、全体のと

りまとめは、観光協会やNPOが全てを行えるようにすることが求められている。

#### (4) 広報費用の捻出

- ・アルクセッションの運営自体については収支の目途が立ったが、広報費用の捻出方法については、課題である。参加料としては、市町村内ならば2千円程度、複数の自治体をまたぎ2日間程度となった場合でも5千円程度との意見もあり、この費用から広報費用の捻出は困難である。
- ・自治体の広報（市報等）や商工会議所、観光協会、NPO等のWEBサイト等には掲載の可能性があるが、流域へ対象を広げた場合の集客エリアとマッチングした広報手段については今後の課題となる。

#### (5) 地域内のさらなる協力体制の確立

- ・今回は「つまみ食いツアー」や「お菓子屋さんめぐり」のような参加店舗を拡大していくことが魅力の向上に繋がる。しかし、全ての店が観光客向けでないので、一概に商店街組合との連携とはならず、一本釣りの地道な交渉が必要である。

#### (6) 東京都大田区観光協会等との連携

- ・今回のアルクセッションにより、大田区観光協会や日本ウォーキング協会とのつながりをつくることができた。今後はこれらの団体と交流を図り、長井のファンを育てていくことが必要である。

#### (7) 流域連携に向けた体制づくり

- ・流域での展開を考えると、まず、その自治体内での協力体制や体制強化が必要である。
- ・広域的な事業は、行政では動きづらいため、最上川ツーリズムネットワークあるいは山形鉄道が主体となる必要があるが、自治体の理解を得たうえで進めて行かなければならない。

### 6.3 平成 20 年度調査の課題への対応（工夫点）

- ・平成 20 年度調査の課題への対応という視点から本年度調査を整理した。

#### 【課題 1】 アルクセッションのプロモーション方法の検討

##### 【工夫点】

- イベントを 10 月に集中実施し、広報についても集約的に実施。
- 複数の主催者の広報費用を持ち寄ることで大規模な広報（10 万世帯）を展開。
- 連携している組織毎に自らの名簿・人脈に基づいてダイレクトメールを実施。
- 置賜地域地場産業振興センター・東京事務所の人脈を活用して交流の糸口を形成した。

#### 【課題 2】 プログラムの中心となっている長井まちづくり NPO センターと長井市の協力体制の確立

##### 【工夫点】

- 関連する団体が一つのテーブルにつき、情報や思いを交換しながら、各団体の連携と役割分担により歩く観光の仕組みをつくった。

#### 【課題 3】 来訪者を迎え入れる地元商店の協力体制の確保

##### 【工夫点】

- 「つまみ食いつアー」の実施
- フリータイムでのお菓子やさんめぐりと割引の実施
- 店先プレゼント&クイズ

#### 【課題 4】 来訪者に買ってもらう長井ならではの商品（土産物等）の開発

##### 【工夫点】

- 新たな商品開発は時間とお金がかかる。その負担まで踏み込まないと実施は難しい。そこで、地域の隠れた産品を、「つまみ食いつアー」として掘り起こし。
- 掘り起こしのため、試食を商店ではなく、製造元で実施。

- ・本業務を開始した 8 月時点では、長井市内において商品開発に向けての具体的な動きはなかった。
- ・商品開発は、コンセプトの設定、試行品制作、マーケティング等の調査、再試行品制作、商品宣伝等、時間と経費がかかるものである。そのような時間的な余裕や経費を負担できる仕組みが長井市内においてはなかったのが、開発に至らなかった理由であると想定される。
- ・そこで、業務受注者は、地域の商品の掘り起こしを模索した。つまり、新たな商品を開

発しなくとも、地域には来訪者にとって十分魅力的な商品があり、それを歩く観光形態の中で来訪者に的確にプレゼンテーションしてあげれば良いと考えた。

- ・今回は、「つまみ食いツアー」として、アルクセッションの中で店舗等に立ち寄り試食と説明をしてもらうよう試みた。
- ・商品の掘り起こしとして、多数の商品がならぶ商店（商店街）ではなく、製造元での試食を実施することにより、特色を出せるとともに製造者から直接話を聞く機会を設けた。
- ・実際のアルクセッションでは、味噌製造会社にて提供された「もろみにんにく」の評価が高く、すぐに完売し、他で扱っている箇所を参加者が聞く場面も見られた。

#### 【課題5】 単発イベントから継続開催するための収益モデルの構築

##### 【工夫点】

- 今後利活用できる案内看板やアルクセッション開催時の協力店舗用の旗を制作。今後の開催費用の負担を低減。
- 20名程度の集客ならば、広報費用を除く費用の収支について目途ができた。

#### 【課題6】 長井に隣接する最上川流域町村との連携によるアルクセッションの拡大

##### 【工夫点】

- アルクセッションでは白鷹町でのツアーを実施した。
- 今後の地域連携の可能性を確認できた。

## 6.4 まとめ

- ・流域の資源を活用して、水源地域の活性化を進めるには、以下の4点が重要であると考えられる。

### ①流域での体制づくり

—流域全体で地域の活性化を図るには、“顔を会わせての情報交換”が重要である。

- ・流域の地域資源を活用していくには、流域の市町村等連携が重要である。しかし、最上川流域のイベントの試行で明らかになったように、各市町村にある観光協会や観光ボランティアガイドは、独自で集客や案内を実施しているため、普段は、各市町村内の資源活用やその案内に徹している。
- ・そのため、市町村を越えた観光ルート化を実現化していくにあたり、当初、近隣の観光協会等から積極的な協力を得られなかった。しかし、顔を会わせての話しを進める中で相互にメリットがあることを理解し、近隣市町村の観光協会や観光ボランティアガイドとの連携が進んだ。
- ・このことを踏まえると、流域全体で地域の活性化を図るためには、普段から、顔を会わせての情報交換が重要であると考えられる。単に、相互の情報（パンフレット等）を交換するのではなく、定期的に顔を会わせる機会を設け、生の声で情報交換を実施し、相互の人間関係（絆）を結んでいくことが必要である。
- ・さらに、社会実験的な流域ツアーの試みや、ワークショップ等を実施して流域の観光マップを試行的に作成してみるなど、具体的な展開を通じて、より連携を深めていくような戦略づくりをしていくことが望まれる。
- ・また、上記の試みを実施していくためのキーマンとなる個人やNPO等の団体を育てていくこと、そのキーマンが各地域の観光協会や観光ボランティアガイドと顔見知りになることが重要である。

### ②賑わいの創出

—集中的なイベント実施による相乗効果をねらうことが重要である。

- ・水源地域を活性化させるためにイベントを実施する際、都市部から人を呼び込む必要がある。しかし、資金力が充分でない水源地域の場合、集客エリア（都市部等）にむけてのPR活動に費用をかけることが難しい。
- ・そこで、いくつものイベントをバラバラ（期間がバラバラ、実施市町村がバラバラ等）に実施するのではなく、ある期間に集中して実施し、一つひとつにかかるPR費用等をまとめて活用し、より効率的なPRを進めていくことが必要である。
- ・また、まとめて実施することにより、賑わいがまし地域の存在感を示すことができるものと考えられる。

### ③流域資源の商品企画力

—来訪者が地域に求めているものを掘り起こし、ネットワークする。

- ・観光ガイドは、自分たちが紹介したいものを紹介しがちである。神社、史跡、巨樹等の特徴的な自然、特徴的な建築物等を案内していくケースが多いが、来訪者は地域の人々とのふれあいを望んでいる場合もある。
- ・長井市で実施した「歩く観光」(アルクセッション)では、地域の特産品を「つまみ食いつァー」(特産品の試食)という形で提示した。製造元で実際に作っている人たちと消費者が直接話して実物を食することで購買につながった。また、参加者・店側双方とも楽しい企画だったとの評価になっている。
- ・一方的な案内だけでなく、来訪者が自分で地域の人々と話をするような機会を設けること、そのためのフリータイムも重要である。

### ④危機管理対策

—事故や病気への予防と対処。いざというとき、地域の信頼を失わないようにする。

- ・地域を案内する場合、事故や病気への予防と対処が以外と忘れられている。保険に入る以上の発想が出てこないケースが多いように見受けられる。例えば、案内ルート上のAEDの設置箇所や土・日曜日に利用できるか、ルート最寄りの病院等の確認などヲ行い、危機管理マップや緊急連絡簿など
- ・一度の事故で地域の信頼を失ってしまった場合、来訪者、案内する側双方が二の足を踏み、それ以降の展開が失われてしまうかも知れない。
- ・集団で移動する際のスタッフの立ち位置や誘導の仕方、事故や病気の際の対処の方法など具体的な対策を十分な下見調査の元実施していく必要がある。また、現場でおこった緊急時の際に、本部のフォロー体制(病気・事故以外のツアー客の誘導等)も同時に設定できるか等、現場と本部の連絡・フォロー体制についても協議しておく必要がある。流域をまたいで案内する場合は特に見落としがちである。

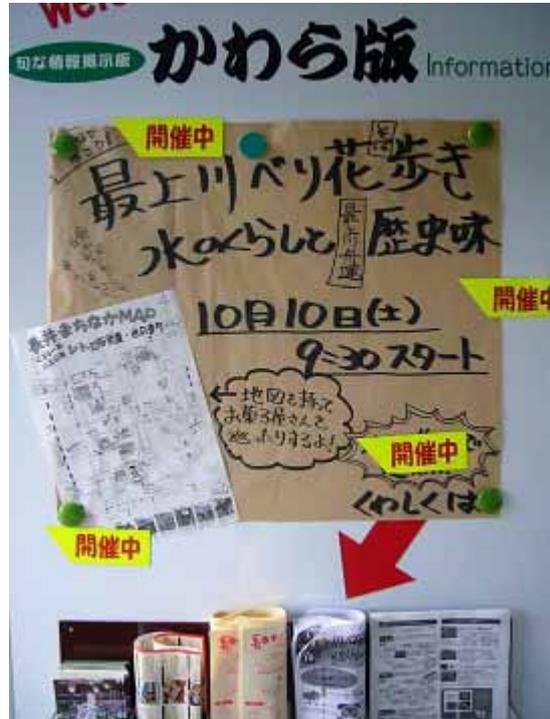
---

# 資料

---

# 1. アルクセッション 09 にて制作した看板、旗、チラシ類

## 看板



## 旗



新聞折り込みチラシ

ながい  
キーワードは「つなぐこと」**10月は長井へござっておごやえ!** (いらっしやい)  
歩いて楽しむ「アルクセッション」とは?

**最上川を軸に秋のイベントがつながる**

長井市長  
長井市は、北阿賀郡の中心地として、豊かな自然環境と、歴史ある町並みで知られています。また、長井市には、多くの観光資源があり、四季を通じて楽しむことができます。10月は、長井市を軸に、秋のイベントが次々と開催されます。ぜひ、長井市を訪れ、秋のイベントを楽しんでください。

**山形県 長井のすごい7大イベント**

10月17日 最上川バーナーフェスティバル  
10月25日 フラワー長井祭り  
10月30日 長井市「新おこし」で地元を歩く  
10月31日 橋下アートセッションOQ  
11月1日 大人の長井まつり学校

山形県 長井のすごい7大イベント  
この秋は長井へ行こう!

ながい  
ながい  
ながい

**10月は長井へござっておごやえ!**

山形県 長井のすごい7大イベント

その1 1000人たいそ會合in長井  
その2 せとます責守フェスティバルOQ  
その3 最上川バーナーフェスティバル  
その4 フラワー長井祭り  
その5 長井市「新おこし」で地元を歩く  
その6 橋下アートセッションOQ  
その7 大人の長井まつり学校

山形県 長井のすごい7大イベント

この秋は長井へ行こう!

ながい  
ながい  
ながい

10月17日 最上川バーナーフェスティバル  
10月25日 フラワー長井祭り  
10月30日 長井市「新おこし」で地元を歩く  
10月31日 橋下アートセッションOQ  
11月1日 大人の長井まつり学校



参加者へ当日配布した地図



# 山形鉄道長井駅に配置したチラシ（地図）

## アルクまっぷ

まちなかに流れる水の流れをたどって行けば、ゆったり流れる懸上川、自然豊かなこの国は四季折々で色んな景色が楽しめる。まちなかにも、あたたかみ溢れるお出迎え。まなマップを持って、出発しよう！

**ご利益コース**

**長井と朝市モダンコース**

**おしっさまコース**

**まちなか案内板**

まちなかの心をつかむために、案内板が設置されています。これらを活用して、まちなかの心を探しましょう。

**長井市観光協会**  
 山形県長井市駅前北9-27  
 TEL 0238-88-5278  
 FAX 0238-88-5276

## 広域マップ

新しい観光地やスポット、歴史や文化の宝庫。まちなかにも、あたたかみ溢れるお出迎え。まなマップを持って、出発しよう！

町名	郵便番号	市役所	市立病院	市立図書館
長井市	987-0001	長井市役所	長井市立病院	長井市立図書館
長井町	987-0002	長井町役所	長井町立病院	長井町立図書館
長井村	987-0003	長井村役所	長井村立病院	長井村立図書館
長井郷	987-0004	長井郷役所	長井郷立病院	長井郷立図書館
長井庄	987-0005	長井庄役所	長井庄立病院	長井庄立図書館

## 2. 「まぼろしの<sup>さこう</sup>左荒線街道ツアー」

- ・白鷹町、朝日町、大江町は、最上川の流域の中でも特に昔からの景観がそのまま残る景観美に優れた五百川峡谷を擁する地域である。この3町が連携して広域的に観光交流を進め、産業の発展、地域振興を図っていくことを目的とする「白鷹・朝日・大江広域観光協議会」が平成20年度に発足した。同協議会は3町が60万円ずつ負担金を出し合い運営している。
- ・平成20年度は、「最上川・五百川峡谷シンポジウム」の開催、「三町広域観光マップ」を発行した。
- ・平成21年度は、10～11月の日曜に現在のJR左沢線左沢駅とフラワー長井線荒砥駅間に計画されたが実現しなかった鉄道「左荒線」を、レトロバスでたどるツアーを実施した。
- ・左沢線左沢駅～東五百川（現在の宮宿）～フラワー長井線荒砥駅の区間は、大正時代から鉄道の敷設が計画されていたが、戦争や時代の変化などから、開通が実現せず、まぼろしの左荒線と呼ばれている。
- ・今回のツアーは、この実現しなかった鉄道「左荒線」をレトロバスで巡るツアー。左沢駅を出発し、各町の観光名所を見学して特産品を味わうなどし、荒砥駅に到着するコース。
- ・バスは長井市のタクシー会社の車両（レトロバス）を使い、同行するガイドは3町のボランティアガイド代表が務める。
- ・ツアーは9月にモニターツアーを実施。10～11月に本格実施した。10月は3、4、18、25、11月は1、8、15の各日計7回実施した。参加費は3000円。定員は各回8人。



---

---

平成 21 年度  
水源地域活性化調査（最上川流域） 報告書

平成 22 年 3 月

発行 : 国土交通省 土地・水資源局 水資源部 水源地域対策課

調査担当 : 株式会社 地域開発研究所 河川・地域計画部  
東京都台東区東上野 2-7-6 東上野 T. 1ビル  
電話 03-3831-2844  
FAX 03-3831-2620

---

---